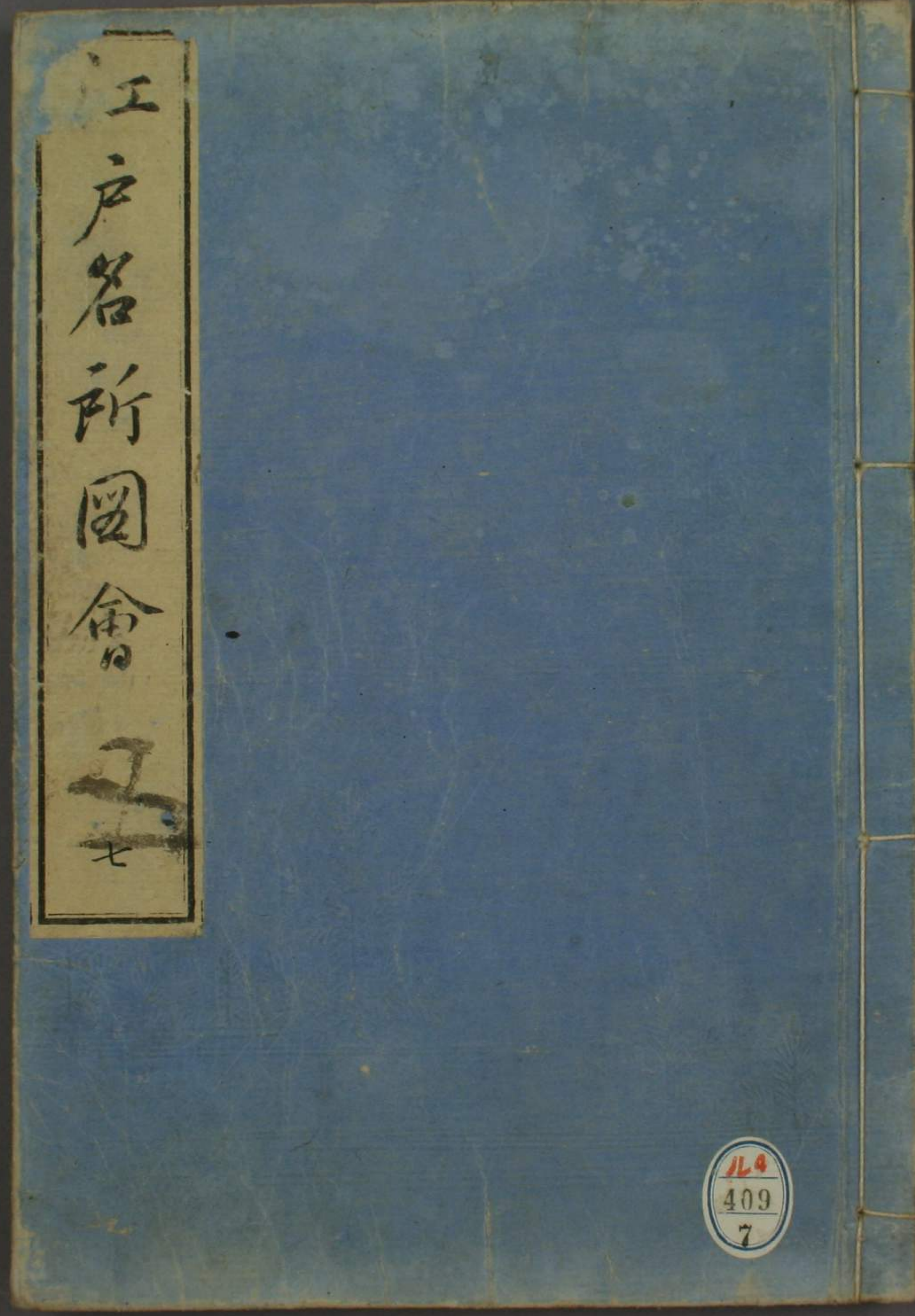


江戸名所圖會卷之三

天璣之部目錄

永田馬場日吉山王神社
第六天祠
寅藥師如來
溜池
霞山福徳祠
廣尾毘沙門堂
土筆系
三站坂
無雲院
平川天満宮
千手觀世音
梅田
靈南坂
一本松
新日觀音
廣尾系
松秀寺
梅ヶ原屋
成田下總守長泰舊地
貝塚
榑う井
麻布若福寺
氷川明神社
子安藥師如來
廣尾系
氷川明神社
白金寺
氷城天満宮
英一蝶墓
清水坂
榑岸院
七佛藥師堂
祥雲禪寺
廣尾水車
電宮
覺林寺
正公社



寶晉齋其角墓 二本樓覺心寺法林寺義教寺上引寺圓高寺

美林院の圖 正覺院 瑞聖寺 誕生八幡宮 維子宮

元三大師堂 白浪妙見堂 鎌作親音堂 富士見榮肆 太鼓橋

明王院 瑞龍寺岩窟辨財天 夕日の岳 安養院寐釋迦堂 仍人坂

蛸藥師堂 圓通不動堂 早尾隆現 本堂 經卷

聖觀音 太子堂 大分寺 結神洞 六所明神 三佛堂

鬼子母神 龜子母神 龜子母神 龜子母神 龜子母神 龜子母神

大島明神社 金毘羅權現社 子代々傳 長泉律院 碑文谷法華寺

秋天主 圓光大師堂 寺堂 奧澤淨真寺 佛とい

二王門 二王門 二王門 二王門 二王門 二王門

大平山 満願寺廣澤先生之墓 龍泉寺 一本系 玉窓寺

赤坂氷川明神社 古呂故天神社 龍泉寺 一本系 玉窓寺

淨土寺 專修寺 赤坂山 圓通寺舊跡 玉窓寺

今井古城址 梅窓院泰平觀音堂 八見親音堂 長光寺 赤坂山

鳳園寺 海藏寺 斧候塚 築橋 濃谷氷川神社 寶泉寺

通明親 金王麻呂守佛親音 鶴ヶ谷 濃谷氷川神社 寶泉寺

濃谷八幡宮 河邊宮重宅旧址 姉尾光景旧館地 富士見坂

同産湯水 玉池 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山

甘露水 玉池 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山

赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山

赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山

赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山

赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山

赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山

赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山

赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山 赤坂山

道玄坂

同物見松

土釜塚

足毛塚

北澤渡島明神社

沈虎村祖師堂

若宮八幡宮

圓禪寺

常盤橋

豪徳禪寺

吉良氏古墳址

宮坂八幡宮

弦巻郷

世田谷八幡宮

氷川明神社

常刀先生義賢之墓

吉祥院

観音寺

小見村除媛蛇神社

慶元寺

江戸遠江守齋飯地

清光寺

稲毛重成墓

韋駄天宮

長者穴

長森稲荷社

雲ヶ坂

藥師堂

大師穴

八木橋現社

稲毛藥師堂

糸向石

檜明神社

同神廟

登戸宿

同渡

小杉新殿地

山王権現社

田谷

牛頭天王社

沙千親世音

忍系

内藤新宿

大栄寺

一行院

古佛孫院洞像

遊女の松

仙妻院

子駄谷八幡宮

珍熱松

代太橋

高井戸

布多天神社

虎柏神社

龍岩寺

千駄谷觀音堂

布多天神社

虎柏神社

龍岩寺

千駄谷觀音堂

布多天神社

虎柏神社

龍岩寺

千駄谷觀音堂

布多天神社

虎柏神社

龍岩寺

千駄谷觀音堂

布多天神社

虎柏神社

龍岩寺

千駄谷觀音堂

布多天神社

虎柏神社

龍岩寺

千駄谷觀音堂

布多天神社

虎柏神社

龍岩寺

千駄谷觀音堂

布多天神社

虎柏神社

龍岩寺

千駄谷觀音堂

里の地名

青渭神社

青渭堤

深大寺

深大寺城址

四分寺

稲波田

富士見塚

武蔵野

赤井

傾城

八幡宮

石塚社

府中驛舎

六所明神社

安養寺

武蔵國造兄武

妙光院

長明寺

津保宮

是政村

代小川

陣街道

三子人塚

橋古

神道

小野村

高安禪寺

六所宮

小野牧

谷保天神社

武蔵國造兄武

清水五場

荻原道成

日野津

安樂寺

日野津

普濟禪寺

萬願寺

石塚社

多摩川

高幡金剛不動堂

平惟盛之墓

本切澤

別後明神

百景八幡宮

松蓮禪寺

二王塚

小山田

延命寺

横溝八郎墳墓

香切坂

赤坂

天守臺

小澤小太郎

城山

明覺寺

穴沢天神社

小沢城址

國安明神祠

青沼明神社

壽福禪寺

都筑の里

青沼明神社

壽福禪寺

都筑の里

青沼明神社

壽福禪寺

都筑の里

展翼碑

沙間山

吐玉泉

法泉寺
茶師

日吉山王神社 永田馬場あり江戸第一の大社なり別當ハ

天台宗僧正より観理院と号し神主ハ樹下氏なり其餘

社僧及び社家巫女等数多あり御祭禮ハ隔年六月十五日

なりその行粧を初春茅場町御旅所の条下ニ詳なり

本社祭神大宮 比叡の二宮小比叡大明神を勧請せし國常立尊

二宮 氣比宮を勧請せし仲哀天皇より應神 三宮 客入宮を勧請せし

冊々より白山妙理権現なり十一面觀世音菩薩を本地佛とす江戶名所記

古鰐口 昔ハ本社の中王子宮本地ハ文珠大士なりとあり

敬白奉納山王權現御寶前鰐口大檀那直景

願主南仙房 武州豊島郡江戸館 天正十四年戊辰十月廿五日

大田大和工長 擬ハ昔ハ山王宮江城の中あり一頃奉納せし鰐口なりと後稻荷

當社ハ淳和天皇の天長七年庚戌慈覺大師勅によりて武蔵

國入間郡仙波あり所の星野山無量寺を再興ありて圓頓の

日光山王神社



教法を弘めし一頃佛法王法護持の爲且ハ和光の利益を
普く萬民に蒙らしめむと欲して我立松の日吉山王二十一社上
中下の内より一社宛を撰る三所の靈神を彼地は勸請し
かゝる星霜を経るも然る文明年中太田道灌此山王三所の
御神を星野山より江戸に遷し其頃の社地ハ今の板根坂の
或人云太田家譜ハ文明十年六月十五日
江戸城内建山王権現堂荒神祠菅丞相祠云々菅祠ハ今の平川天神の事なり
此國初の項迄ハ西社と云ふ所城内ありて菅祠ハ平川口後門の外ヘ天正より
遷され山王ハ所城の鎮守と云ふ所山王は遷座ありて今なる
この江戸を以て永く御當家御居城の地と定させし頃
紅葉山は移し新の社を御造営ありて御産神ありし頃
御城西貝塚の地へ遷し其年歴詳ハ江戸名所記ハ後土門院
延徳年中御社の旨ありて道灌結縁の爲三所の
神社を城西より一里ハ再興修造ありと云云此説未考へて實ハ永明曆の江戸
國より新岡古涼山王宮の旧地ハ井伊掃部侯の北今の三宅備後侯の第に
地なり其王の旧地なりとあるハ實ハあると又事跡合考ハ云く伊井掃部頭殿の居館の南
後元未申の方の小坂の際中二間あり長十間あり松杉の少く繁る所の内ハ
御祠の祠ある隙地是山王一度乾蔵御門外より移され古跡の由傳と云
又兼應三年甲午田禄の後溜池の築山勝地たるにあり

竟ハ台命の今この地へ遷座なり名勝志云く明曆丁酉の歲田禄より
て兼應三年當社を貝塚より今の地へ
遷しあるとあれ兼應ハ明曆より先の年号ありハ
此説證ともふくは或人云元方治元年今の地より云々金殿玉樓ハ天小輝き
畫棟朱簷ハ地映せ名勝志云此地ハ元松平
主殿及東宅の地ありと云あり已降
和光同塵の利益淺く内中圓宗の教法を守り外あり
鎮國利氏の徳を施し殊更御當家の御産土神とて
御崇敬最厚く天下泰平國家安鎮の御祈禱永世急
るなり
成田下總守長泰旧地 永田馬場山王の隣丹羽家の地なりと
いふ古へ武州忍の城主なり
第六天祠 同所兼松家の地あり太田左金吾道灌の勸請あり
といひつゝ

平川天満宮 御城西麴町三丁目の南平川町にあり別當八天台

宗より長松山龍眼寺と号け東叡山に屬せ

傳云當社ハ文明十年戊戌六月廿五日太田持資當國入間郡

川越三芳野の天神と江戸城に勸請し數株の梅を栽ると云云

今の御城内平川の梅林と唱ふ其梅林の跡なり新安子簡ハ文明中太田

道灌築くれり江戶城平河口中菅神の社上棟の文ハ文明十年戊戌六月

廿五日其後天正十八年御入國の頃彼宮を平川口の外へ移さる

有之云 友山翁云江戸所入府の節平川より貝塚へ故ハ平河の天神と唱へる

此故ハ今の麴町の地ハ到りて旧名を又其後慶長に至り御本丸街道營

改め猶社迎の町を平河町と云 夫より今の麴町の方へ續き昔の甲州街道あり其平河町の内ハ藥師堂有之

其別當天神の社と預て藥師堂のかゝりて其地ハ移すと又傳記ハ麴町より

地より麴町の迎へ引とて刻天神の社ハ共ハ移すと又傳記ハ麴町より

今に至り旧地の名を改め天満宮の社内ハ彼ハ幡宮ハ勸請し文武両道

寛政七年修營ありて神殿清新なり毎年二月廿五日營神

自画の神影をわけ諸人小拜とむ

梅花無盡蔵云 余比寓武之江戸城々有丞相祠

堂裁柳挿松不知幾數百株文明丙午仲春二十

亦有五適值丑之晨寔也之所少也謹賦小詩題史

亦不相之壁上也夫徑山之傳衣迦迦茫之說而國史

北野春遊西府未及茲云 松亦應云梅亦云

夢中傳法定焉有 獨居南面牡丹紅

同書 開闢遊江戸城管丞相 梅亦應編王者中

若令丞相相細分州 吟香白髮老浮屠

同書 宋末江湖梅亦孤 分作文公大極圖

橫斜月瘦一枝影 同書 身居關左而名晚步詩序

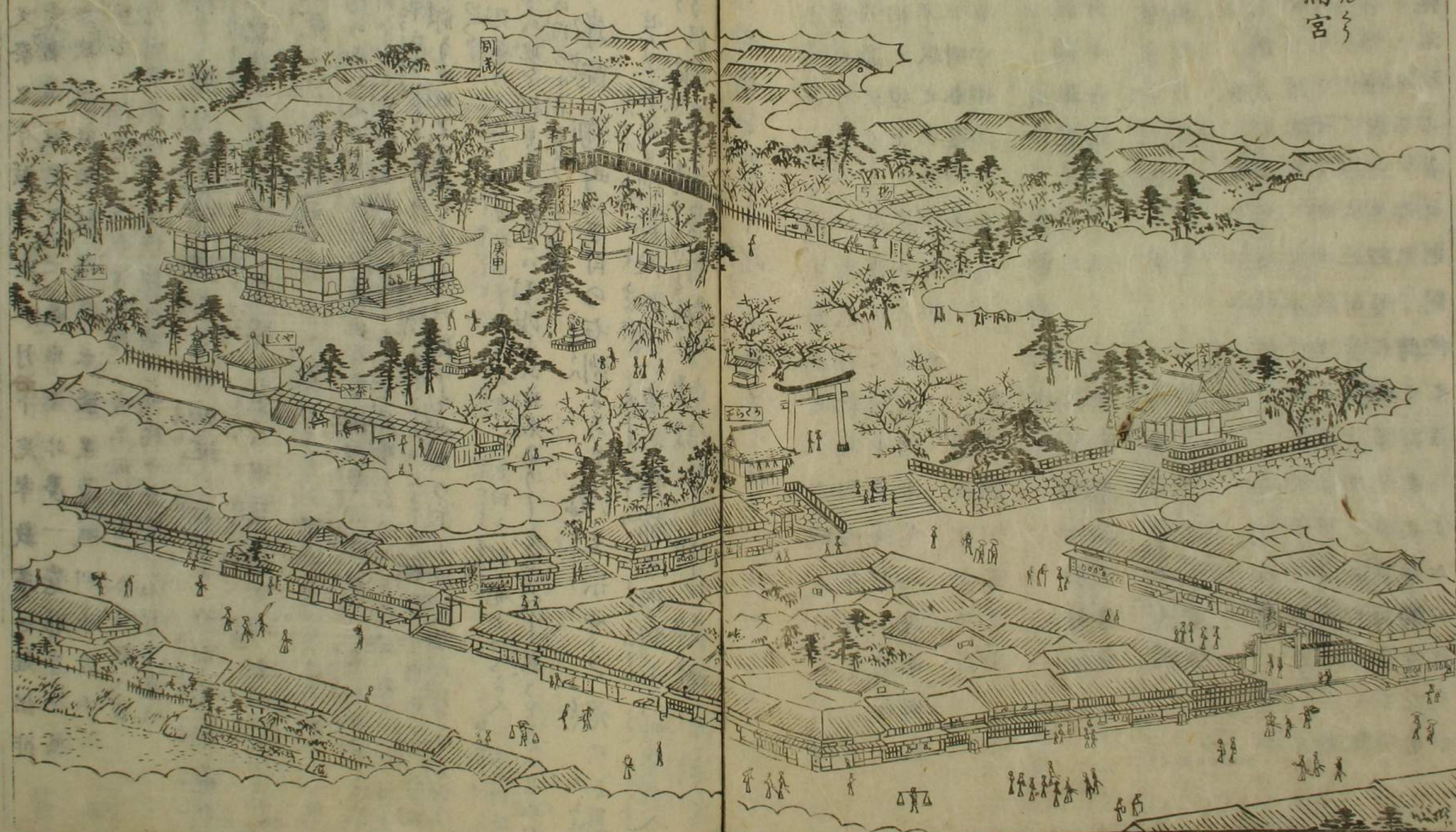
是也公曾宴坐一室夢中著太田二十石灌公靜勝

人卒然求獻丞相所親筆數十畫像可謂其早也

建廣於江戶城之北畔寄錦城之頃之梅花田歲時鼓

焉裁培數百株之北畔寄錦城之頃之梅花田歲時鼓

平川天満宮
ひらかわてんまんぐう



造文祭之今茲丁未正月下浣率數輩之緇侶徘徊菅廬追憶前年之遊事豈非夢一覺邪感際無措余欲鼓篋掉版岐陽未能果漫賦四十言云

移步一節瘦 餘寒驚度稀 去年丞相席 今日故人非
老眼看花落 舉頭疑雪飛 岐陽千里外 山可笑遲皈

貝塚

都々廻町の辺に總名なり此地ハ昔より甲州街道ハ

其路傍あり一里塚を土人甲斐塚と呼ぶとせしと

なり或説ハ貝塚法印といふ墓ありともいひるなり

此地馬場の南ハ芝の青松寺の舊地なり南向亭云青松寺ハ青松甲斐といふ

人の草創なり當時玉虫氏の邸ありと見塚といふ上ハ古碑あり年月ハ

玉虫氏の前より坂と見塚といふ一説云此地の下ハ甲斐氏なる宅あり

見塚の地を領するありとありハ此地名ありともいふ然るもハ見塚ハ

村高山極岸院廻町ハ丁目の右側あり浄土宗なり洛の知恩

院ハ属せり本尊阿彌陀如来ハ恵心僧都の作閑山ハ妙譽真入

上人と号し開基ハ安藤對馬守重信なり昔ハ長福寺と号て

三州ありと當寺ハ頼朝の念持佛と稱する聖觀音ハ

靈像を安置す龜龍ハ安置する觀音の像ハ七月十日ハ千日泰と

唱々泰指頗る多し

寅藥師如来 同北の横小路坂より上道の左側常仙寺といふ

禪刹ハ安置せり此藥師佛の像ハ行基大士の作なり相傳ハ

此靈像永祿の頃迄ハ參州鳳來寺の山麓ハ立せしむる往古

當寺閑山祥若存吉禪師參州新城よりありと云々凡俗とを

一頃俗姓ハ安田此靈像虎ハ化現しハ狼の難を遁れしむ

依りて法恩の爲ハ出家ハ江戸小來より四谷塩町の明雲山

龍昌寺といふ禪林ハ住を其頃當寺を闢く此本寺を安置

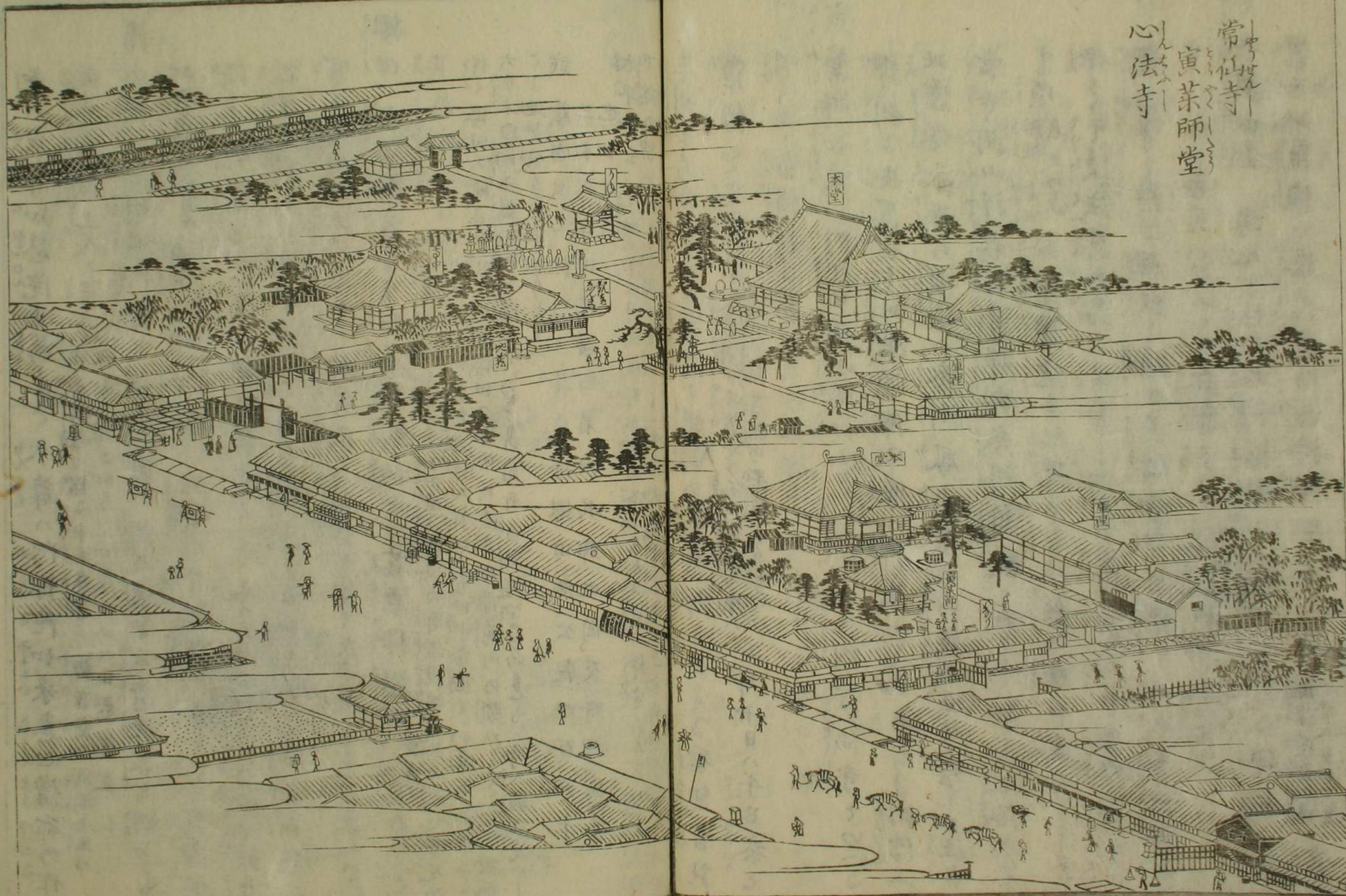
せしあり毎月八日十二日泰指多し此本寺ハ此小路と

千手觀世音 同九丁目の右側常榮山心法寺といふ浄刹ハ安

置此靈像ハ秦川勝の念持佛なりといふ

閻浮檀金立像 一寸八分あり云

常仙寺
寅菜師堂
心法寺

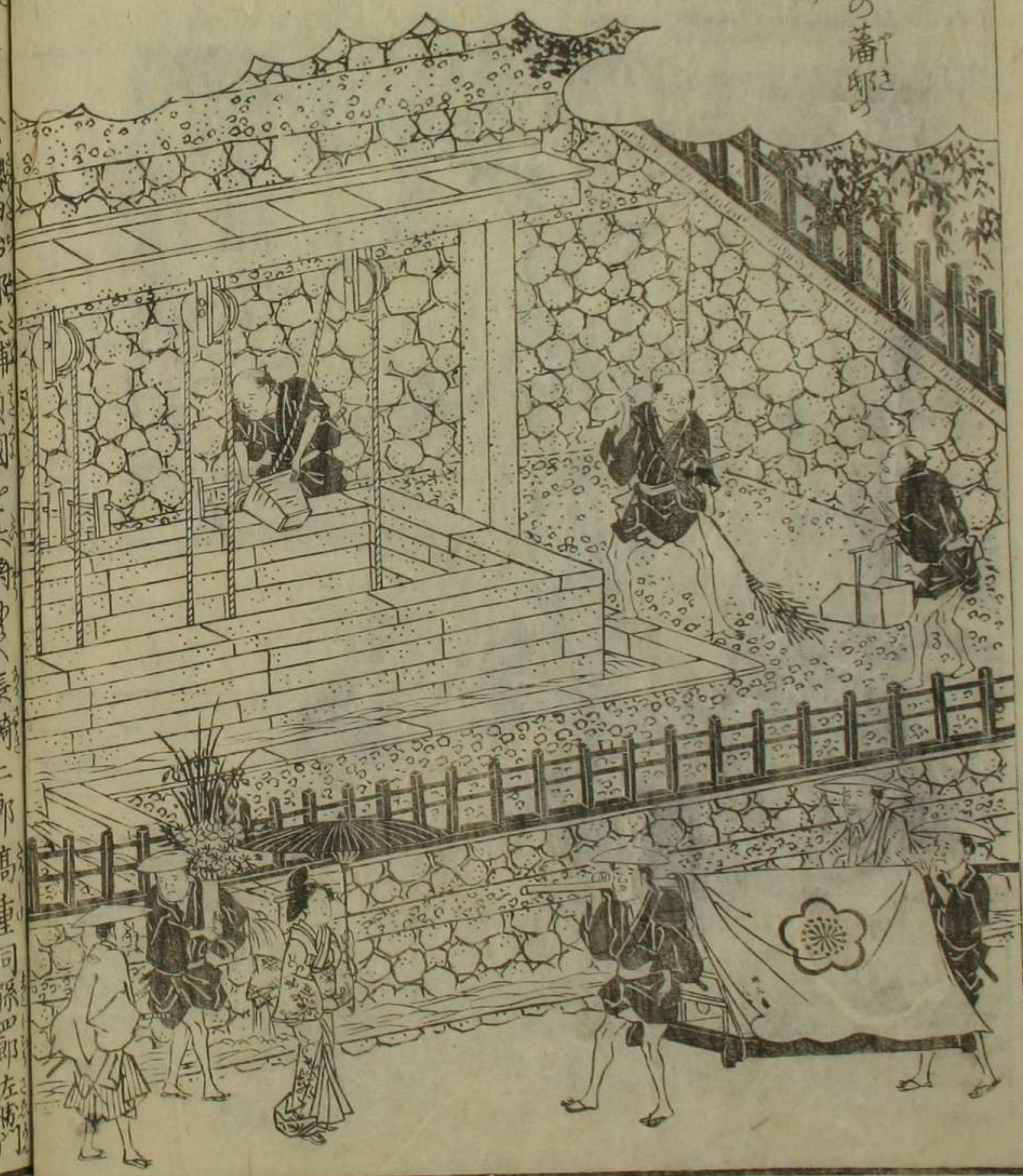


寺ハ京師知恩院ニ属ス本尊ハ阿彌陀如来惠心僧都の作
 岡山ハ然翁上人と号シ當寺洪鐘の銘ニ市谷庄とあり觀音堂ハ岡王十五の
 清水坂 尾州公卿館と井伊家の間の坂を云清水谷と唱ふるも
 此辺のより形ヲ 麴町ハ丁目へある坂下 此所の井と柳の井と号スハ清水
 流ス柳蔭とつる古歌の意をとりたるなり富士見坂を
 松平出羽侯の前とつゝ玉川の滝ハ同一庭中ありと駒井小路ハ
 富士見坂の上の方あり駒井氏ニ住せりと云ふ号とせんとつて
 櫻田 古の郷名なり和名類聚抄ハ荏原郡櫻田 佐久とありと云ふ
 其称尤久シハ豊島郡ニ属セリ小田原北条家の所領役帳ハ太田源七郎及ハ
 往々櫻田の地名と注シ城ハ櫻田久保町同兼務町備前町の類ハ今之麻布
 六本木の南ハ櫻田町と唱ふるあるも同所百姓町等ハ今之麻布
 武蔵國風土記曰 荏原郡櫻田郷公穀四百六十
 三東三字田號櫻田者以其郷之岡及野櫻樹多
 也云云
 太平記云 元弘三年五月武蔵野合戦の条下ハ九日軍の陣ありと云ふ
 下河辺の勢と云ふは武蔵守守將五万余騎と差副て下河辺

柳の井



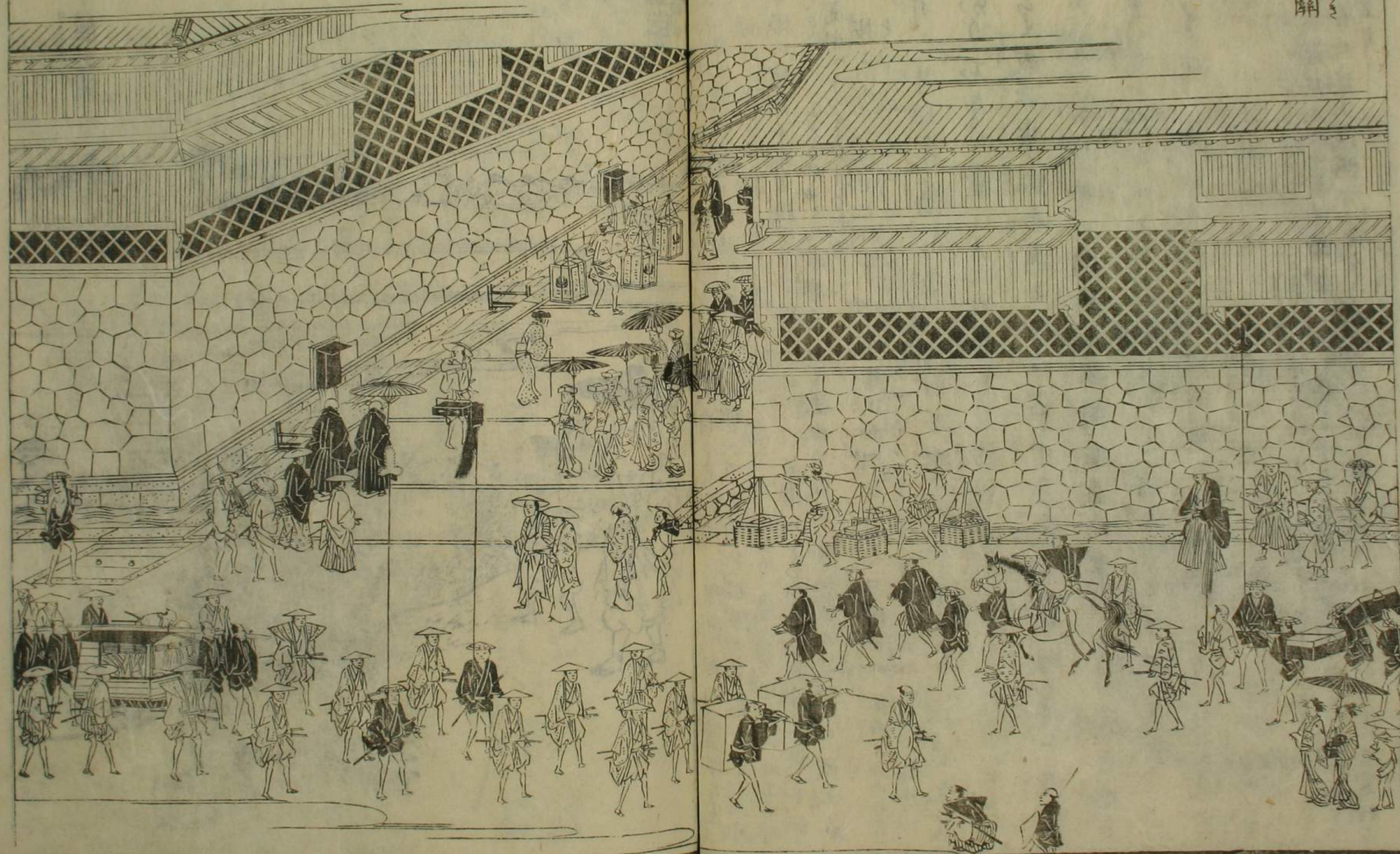
櫻う井
井伊侯の藩邸の
前あり



櫻う井 井伊侯藩邸表門の前石垣のまわりあり 亘る九尺
さかり石わく置く 大井なり 釣瓶の車三つかけあり
たり 或云事跡合考の井伊家中屋敷四ツ谷喰違の屋敷
ともあり 若葉井ハ同所堀端番屋の裏にあり 柳の本を
うゑ 柳の水ともいへる 清冷なる甘泉なり
霞開舊蹟 櫻田御門の南黒田家と浅野家との間の坂を
云往古の奥州街道中へ 御門のありし地なり 宗祇法師の名
あり 武蔵風土記に荏原郡東八幡ヶ原にあり 此地今ハ豊島郡に属せり
云地名なり

櫻う井 井伊侯藩邸表門の前石垣のまわりあり 亘る九尺
さかり石わく置く 大井なり 釣瓶の車三つかけあり
たり 或云事跡合考の井伊家中屋敷四ツ谷喰違の屋敷
ともあり 若葉井ハ同所堀端番屋の裏にあり 柳の本を
うゑ 柳の水ともいへる 清冷なる甘泉なり
霞開舊蹟 櫻田御門の南黒田家と浅野家との間の坂を
云往古の奥州街道中へ 御門のありし地なり 宗祇法師の名
あり 武蔵風土記に荏原郡東八幡ヶ原にあり 此地今ハ豊島郡に属せり
云地名なり

霞
ろ
關



霞ヶ関古圖



武蔵野地名考云或古記曰 荏原郡霞關日本武

尊蝦夷之儲關也尔来連綿大被置之舉國之勝

景而然其遠眺隔雲霞故有霞關之號云云

爲世 宣子

仙洞

龜山院

爲守

光隨

爲氏

頭氏

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

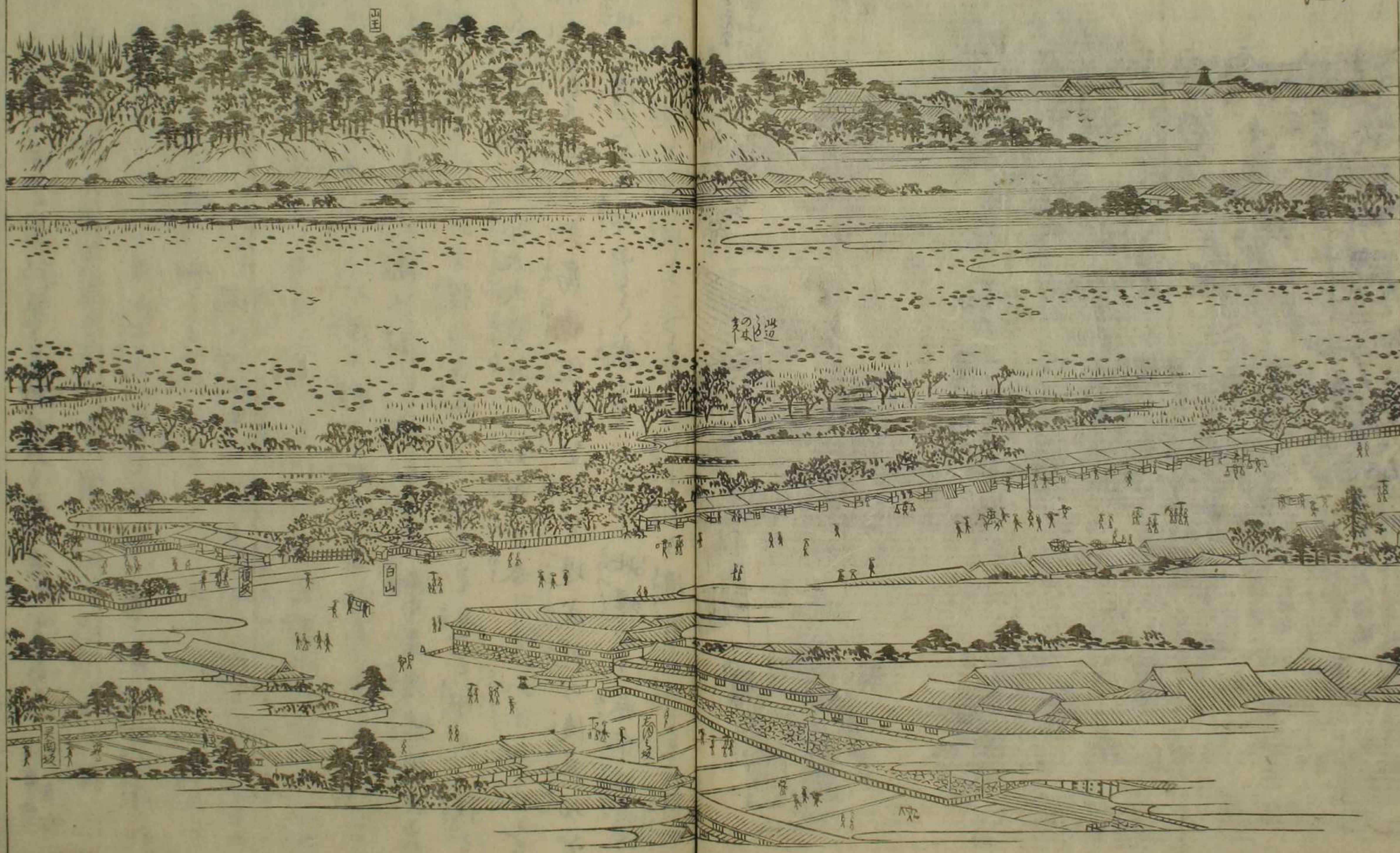
同

同



溜池白山祠

溜
池



あつちま路のあたりに幸て我もたふさかへん 道典 准后

都のいそぐをいふもとめ 都の宮もまを待つ人 同

溜池 赤坂御門の外より山王宮の麓を東南へ繞る昔神田玉川の

西上水より江城の御もとへ引せらるる其以前ハ此池水を

上水より用られしとあり 寛永明暦等の江戸の圖ハ赤坂溜池に江戸水道の

大目録あり 往古 釣命より江州琵琶湖の軒下ハ山城

淀の鯉等を活なり此池に移し放しめりしとありと云ふ

く他は異なり又蓮を多く植らしめり 故ハ夏月花の盛

奇観なり又池の堤ハ榎の古木二三株あり是を印乃榎と

名く昔浅野左京大夫幸長 釣命を奉り此所の水を

築止めり其臣矢島長雲是を司り堤成就の後其功を

後世に傳んし印ゆし我々より此堤より麻布谷町の

方へ下る坂を榎坂といふ前ハ述所の榎あり又同不

堤の北の方辻番所の脇堤の傍ハ葵を植ふる地あり土俗

葵う岡と云ふはせりこのより東へ向ひ下る坂を葵

坂と号く 按ハ小田原北条家の古文書太田新次郎所領ハ江戸櫻田池今ハ地名を

靈南坂 溜池の上より麻布へ登る坂といふ慶長の頃高輪の東禪

寺此地にあり 寛永九年の江戸圖ハもとハ 彼寺の開山を靈南和尚と

稱せ道光を慕ひく坂の号ハ今ハともなふ 潮見坂ハ同所松平

大和侯の表門前ハ傍り溜池の上より東へ下る坂をいふ

江戸見坂ハ靈南坂の上より土岐牧野両家の北の腹を曲りて

西窪の方へ下る坂なり

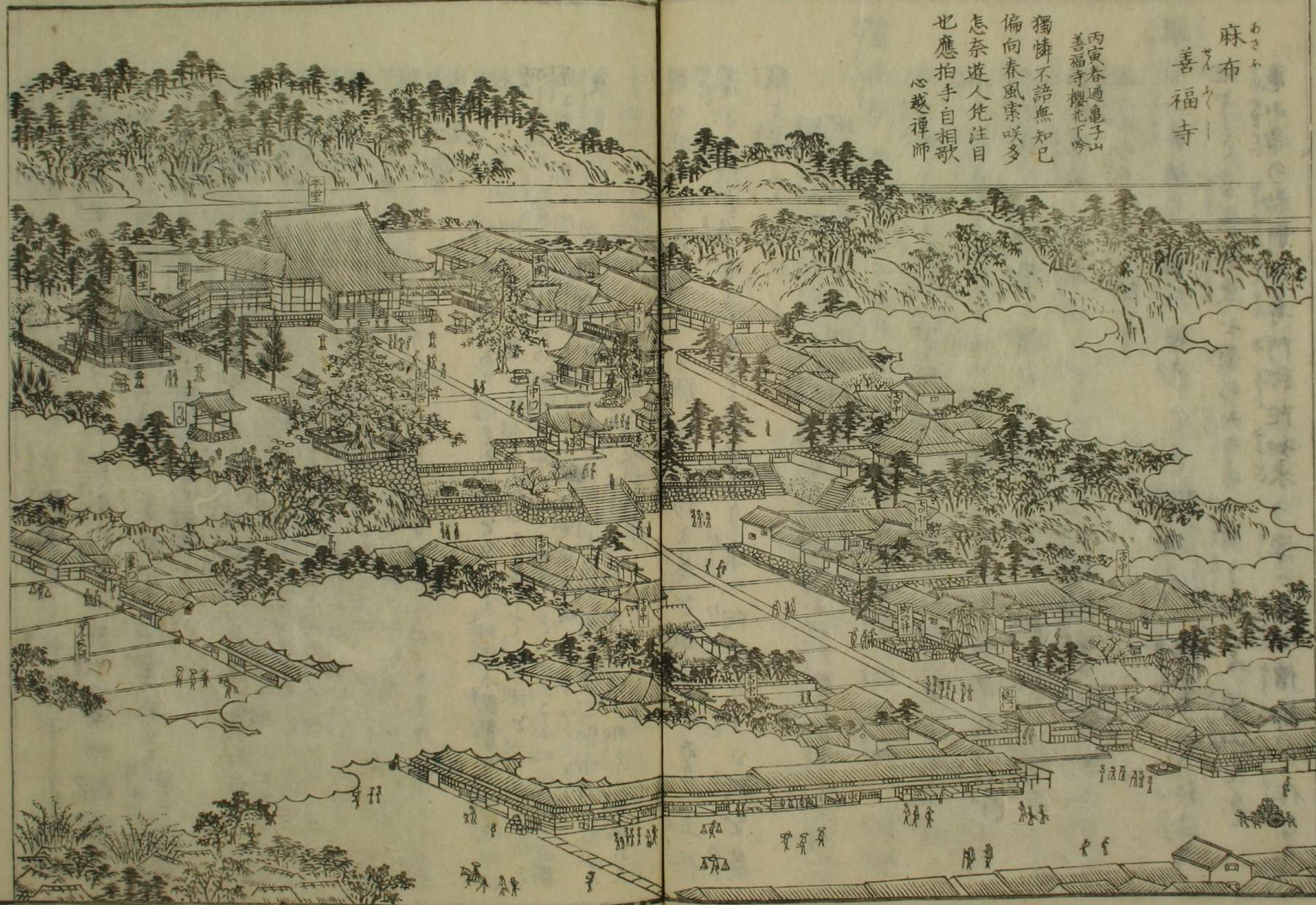
麻布山善福寺 麻布雑色にあり 昔ハ龜子山と 親鸞上人弘法乃

地より當宗廟東七箇の大寺の一員了海上人開山たり

龜山帝の勅願本尊阿彌陀如来の像ハ惠心僧都の作なり

麻布
善福寺

丙寅春過龜子山
善福寺櫻花下吟
獨憐不語無知己
偏向春風索喚多
怎奈遊人凭注目
也應拍手自相歌
心裁禪師



往古ハ南紀の野山は象て草創あり一梵宇あり初め
真言密乗の勝區たり貞永元年壬辰了海師親鸞上人

の弘法は歸化一宗風を結す支院十餘宇あり新田原北条

帳は島津孫四郎所領の中は飯倉内櫻田善福寺

藏王權現堂本堂の南岳の山あり當寺の開山堂なり了海堂なり麻布

の形は現上人の法義を聴聞し是を喜み又一面形と云ふ時告て曰く

造其神告其胎中は是を収め依りて海上人自前と云ふ此地の鎮守と稱し毎歳

七月十五日草角力與修持ありて十月三日ハ開山所身持と唱ふる行あり

則開山忌日此日新水盤を造り彼木像を浴しまのせ平座に敷き同僧

徒等阿彌陀を讃誦す

杖銀杏樹開山堂の前は石垣をもち相傳へ親鸞上人了海師に

附法あり後を去りての跡を杖と云ふ此樹は根葉

逆は云く念佛の弘法允夫の往生も亦かくの如きと云然る小此樹は根葉

鹿島清水惣門と云ふ阿加井あり又土人云く鹿島の地は七井と稱する靈泉あれ

とも其中一ツハ空ありと云昔ハ其側は樹樹

寺記云中興開山了海上人ハ鳥羽院の苗裔左大臣藤原信實

公の息男なり信實公故あり當國は放れ品川の近邑にあ

今の大井村ハ其旧地あり第二卷信實公一子あり憂て藏王權現小祈

大井弘福寺の条下詳あり請ひひられ其室白布を吞と夢見く懷胎一建仁元年辛酉

林鐘十五日一男子を誕生せし海上人其時後園松樹の下に忽

然と清泉涌出せり此故了海上人の幼名を松君と号け理の名を大井と

依人皆奇異とす此兒七歳の春父告く出離の志ありて頭ハ

せり故に實相寺の範賢律師に投じ鬚髮を剃除し了海と号く

一書ハ巖山に登り静養僧都ハ是より後數學窓は身を委諸宗を濟

あるひと巖山の寺をきかむと云竟に古郷小歸し本願弘興の基趾を求めんと則藏王權現の

叢祠に詣し是を祈り靈瑞ふより此地に至る一精舎あり

今の善福寺題あり神の教ありて知りて止住一年を歴り然る貞永

元年壬辰親鸞上人東國經回の時適當寺に入ひて海師其

善福寺開山
了海上人
誕生圖



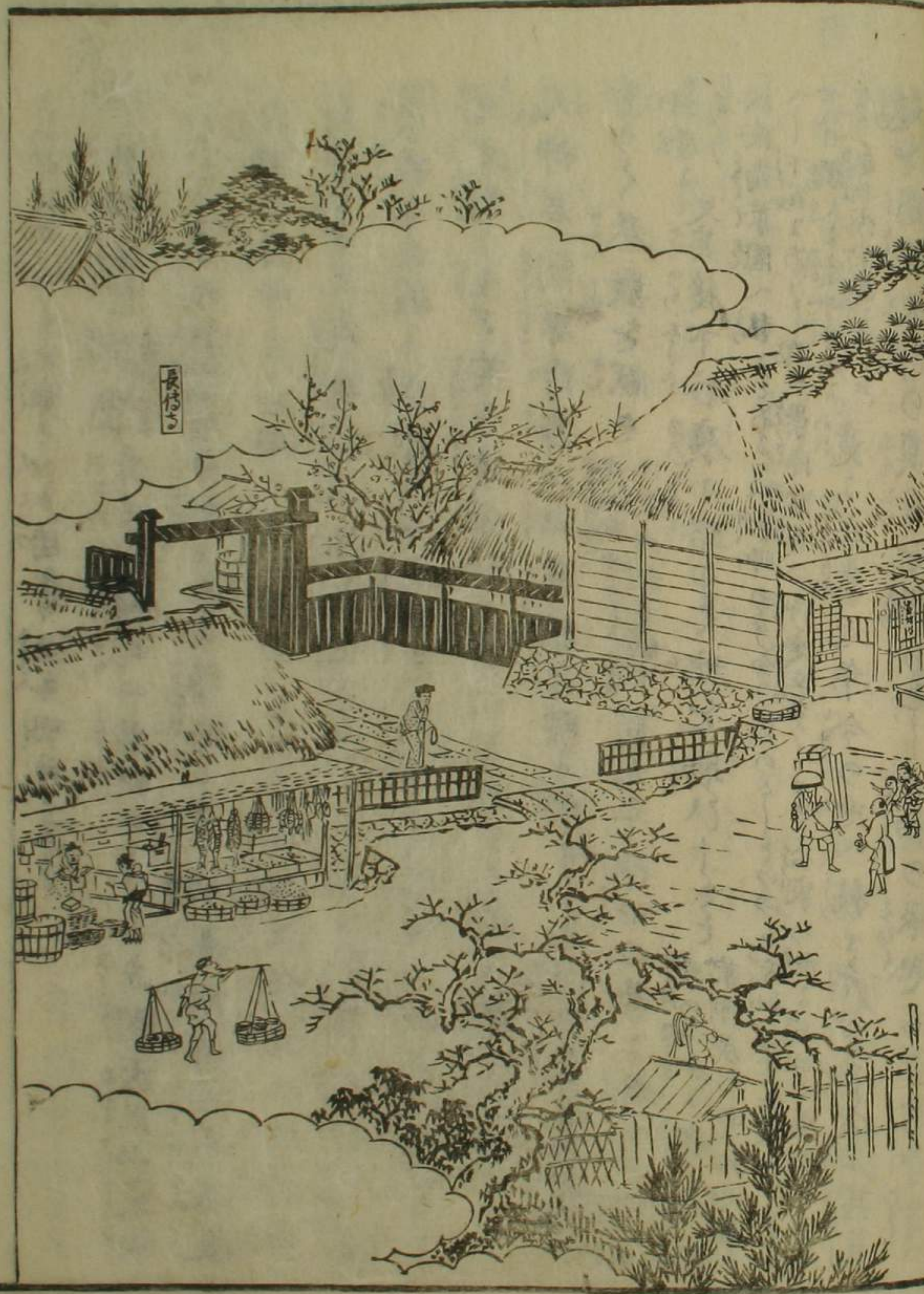
夜試^{よそぎ}は屈請^{くつじやう}一談^{いだん}は三蜜^{さんみつ}論^{ろん}伽六^{かろく}即止^{じつし}觀^{くわん}を以^{もつ}て親^{おや}寫^{しやう}上人^{じやうじん}是^{こゝ}に
答^{こたへ}ふも響^{ひび}の音^{おと}は應^{おこ}ずるもめ^め一竟^{いひ}は念佛^{ねんぶつ}住生^{じやうじやう}の理^りと論^{ろん}するも
至^{いた}る海^{かい}師^し直^{ちやう}は親^{おや}寫^{しやう}上人^{じやうじん}の弘^{くわん}法^{ぽう}は帰^き降^{かう}一師^し資^しの約^{やく}嚴^{げん}なりて
是^{こゝ}より宗^{しゆ}風^{ふう}を將^{しやう}一化^{くわ}を布^ふり遠^{えん}近^{きん}は普^ふの直^{ちやう}弟^{てい}六^{ろく}老^{らう}僧^{そう}凌^{りやう}永^{えい}仁^{にん}
二年^に甲^{けつ}午^ご十一月^{じふいちがつ}六^に日前^{にんげん}念^{ねん}命^{めい}終^{しゆう}後^ご念^{ねん}即^{じつ}生^{じやう}の素^そ懷^{くわい}を遂^{つい}に
以上^{いじやう}寺^じ記^き及^{およ}び二十四^{にじふよん}輩^{はい}靈^{りやう}場^{ぢやう}記^きの意^いを採^{さい}る佛^{ぶつ}光^{くわう}寺^じの實^{じつ}錄^{ろく}に云^いく了^{りやう}海^{かい}上人^{じやうじん}ハ元^{げん}應^{えい}二
年^に庚^{かう}申^{しん}正月^{じやうがつ}廿^に八^{はち}日^{にち}八^{はち}十二^{じふに}歳^{さい}中^{ちゆう}く藏^{ざう}武^ぶ藏^{ざう}國^{こく}阿^あ佐^さ布^ふ善^{ぜん}福^{ふく}寺^じと号^{ごう}に遷^{せん}應^{えい}元^{げん}年^{ねん}
誕生^{たうじん}廿^に四^し歳^{さい}の時^{とき}祖^そ師^し圓^{えん}寂^{じやく}云^いく傳^{でん}燈^{とう}系^{けい}因^{いん}元^{げん}應^{えい}二年^に十二月^{じふにがつ}六^に日^{にち}寂^{じやく}又^{また}大^{だい}谷^{こく}遷^{せん}跡^{しやく}録^{ろく}云^いく
高^{かう}祖^そ藏^{ざう}後^ご十六^{じふろく}年^{ねん}弘^{くわん}安^{あん}元^{げん}年^{ねん}四十^{しじふ}歳^{さい}の頃^{ころ}與^よ正^{しやう}寺^じ入^い第^{だい}四^し世^{せい}の寺^じ務^むとあり永^{えい}仁^{にん}五年^{ごねん}願^{がん}念^{ねん}
誓^{せい}願^{がん}は寺^じ務^むを譲^{じやう}て武^ぶ州^{しゆう}府^ふ布^ふ下^かる元^{げん}應^{えい}二年^にの春^{はる}正月^{じやうがつ}化^{くわ}縁^{えん}の薪^{しん}及^{およ}び廿^に八^{はち}日^{にち}即^{じつ}生^{じやう}
凌^{りやう}永^{えい}仁^{にん}の素^そ懷^{くわい}を遂^{つい}に一^{いつ}化^{くわ}の時^{とき}世^{せい}違^{ちが}へる可^か老^{らう}の
弘^{くわん}法^{ぽう}大^{だい}師^し刷^{しや}毛^{もう}書^{しよ}名^な號^{ごう}弘^{くわん}法^{ぽう}大^{だい}師^し入^い第^{だい}一^{いつ}世^{せい}の年^{ねん}再^{さい}弘^{くわん}法^{ぽう}大^{だい}師^しに來^きて多^たく
猶^{なほ}俗^{ぞく}當^{たう}に當^{たう}に八字^{はちじ}名^な號^{ごう}親^{おや}寫^{しやう}上人^{じやうじん}歸^き洛^{らく}一^{いつ}年^{ねん}都^とへ登^{のぼ}り上^{じやう}以^{もつ}て南^{なん}无^む不^ふ可^か
寺^じに就^{しゆ}す思^し議^ぎ光^{くわう}佛^{ぶつ}と翰^{はん}墨^{ぼく}を瀝^しと是^{こゝ}を海^{かい}師^しとたまふ當^{たう}寺^じの什^{しち}宝^{ぼう}とをこのり
當^{たう}寺^じハ弘^{くわん}法^{ぽう}大^{だい}師^し草^{そう}創^{じやう}ありより已^い降^{かう}一^{いつ}千^{せん}餘^よ歲^{さい}を經^へる古^こ藍^{らん}
なり殊^{こと}更^{さら}文^{ぶん}永^{えい}三^{さん}年^{ねん}の秋^{あき}八月^{はちがつ}龜^き山^{さん}帝^{てい}勅^{ちやく}一^{いつ}願^{がん}寺^じとありしめれ

薦^{せん}紳^{しん}一^{いつ}負^ふ誥^ご聖^{せい}及^{およ}び俸^{ほう}曰^いを賜^{たま}ふ境^{けい}内^{ない}は古^こ墳^{ふん}多^たく最^{さい}古^こ跡^{しやく}あり
明^{めい}け一^{いつ}今^{こん}一^{いつ}向^{かう}專^{せん}修^{しゆ}の宗^{しゆ}風^{ふう}盛^{せい}中^{ちゆう}く化^{くわ}導^{だう}遠^{えん}近^{きん}は普^ふ一^{いつ}

一本^{いつぽん}松^{しょう}同^{どう}所^{しよ}北^{きた}の裏^{うら}通^{とう}り一本^{いつぽん}松^{しょう}町^{ちやう}道^{だう}の傍^{はた}り一^{いつ}株^かの松^{しょう}は注^{しゆ}連^{れん}を
懸^{けん}其^{その}下^{した}小^{せう}垣^{げん}を廻^{めぐ}らせり里^{さと}諺^{ぎやう}は云^いく六^{ろく}孫^{そん}王^{わう}經^{きやう}基^き此^{この}地^ちを過^かる頃^{ころ}此^{この}
松^{しょう}は衣^い冠^{かん}を懸^{けん}あひと冠^{かん}松^{しょう}の名^なありとも其^{その}餘^{あま}とめくの説^{せつ}あれとも
分^{ぶん}明^{めい}ありす今^{こん}此^{この}辺^{へん}を一本^{いつぽん}松^{しょう}と号^{ごう}し地名^{ちやうめい}とあり或^{ある}云^いく小^{せう}野^の
篁^{ちやう}植^{ちやく}る所^{しよ}ありとも

水^{みづ}川^{がは}明^{めい}神^{しん}社^{しゃ}同^{どう}通^{とう}り南^{なん}の方^{かた}上^{うへ}野^の町^{ちやう}道^{だう}より左^{ひだり}側^{がは}あり麻^あ布^ふの惣^{そう}鎮^{ちん}
守^{しゆ}ゆ祭^{さい}れハ八月^{はちがつ}十七^{じふしち}日^{にち}あり相^{あい}傳^{でん}文明^{ぶんめい}年^{ねん}間^{かん}太^{たい}田^{でん}道^{だう}灌^{かん}當^{たう}國^{こく}

一^{いつ}宮^{みや}水^{みづ}川^{がは}明^{めい}神^{しん}を勸^{かん}請^{じやう}する所^{しよ}ゆ旧^{きう}地^ちハ同^{どう}所^{しよ}宮^{みや}村^{むら}の切^き通^{とう}坂^{ばん}に
ありとあり別^{べつ}當^{たう}ハ真^{しん}言^{げん}宗^{しゆ}ゆと德^{とく}兼^{けん}寺^じと号^{ごう}す古^こ老^{らう}云^いく昔^{むかし}の二^に鳥^{とり}井^いハ
三^{さん}の鳥^{とり}井^いハ今^{こん}所^{しよ}滑^{わく}鳥^{とり}井^いの地^ちありしと其^{その}旧^{きう}地^ち今^{こん}八^{はち}山^{さん}の住^{ぢゆう}持^ぢ退^{たい}隱^{いん}の地^ちありて
露^ろ白^{はく}和尚^{わうしやう}寛^{かん}文^{ぶん}二^に年^{ねん}の九^く月^{げつ}そとあり此地^{このち}ハ隱^{いん}栖^しありとあり其^{その}所^{しよ}今^{こん}の所^{しよ}ハ社^{しゃ}と



麻布一本松

うつせしあへー元禄の江戸図中々麻布明神とあり

七佛薬師如来或ハ神田麻布本村町の南坂の下り口左側医王山東福

寺といふ天台宗の寺内よあり縁起云く本尊薬師如来ハ傳教

大師の作ゆ七佛の其一員ありその六孫王経基の持念佛

たりしゆり永業年間頼義朝臣鎌倉へ移され後代々の官領

崇敬あり然る長禄の頃太田道真當國河越の城中に安置し

又文明に至り其子道灌江戸平川に移せり然る慶長五年

大神君關原沙陣の初慈眼大師を命せし此本尊を市祈念

ありと巻敷を献せ今此例中より正五同九年神田の墓に移る

河臺又其後下谷廣小路ゆく地を賜ひし其の一本は廣小路の

必後南菜園へ移るとあり此菜園のゆかり成のときとあり

へ下谷はあり崇徳院殿の所建立ありしと公家の記は天和二年生戌の年

廿八日類火は逢甲用地は竟貞享元年今の地へ移されし其旨

趣と慈眼大師の真筆と添らし一軸の縁起あり當寺昔ハ

仙波喜多院に属せり慈眼大師の時より上野に属せり

霞山稻荷明神祠 櫻田町道より右あり往古ハ櫻田霞山にあり

しと所廓定より頃今の地へ移るしと別當ハ天台宗あり

霞山櫻田寺觀明院と号く本尊陀尼天像ハ足利義國の守

神中て行基大士の作秩父重康安置せりと云相傳ふ當社ハ渋谷

莊司重國勸清し文明中道灌再興せり又往古右大将頼朝卿

櫻田村あり美田五百七十石を寄附あり供田の印ハ櫻樹を植

要害を構く江戸太郎重長をて往来を改めむ其後遙小年

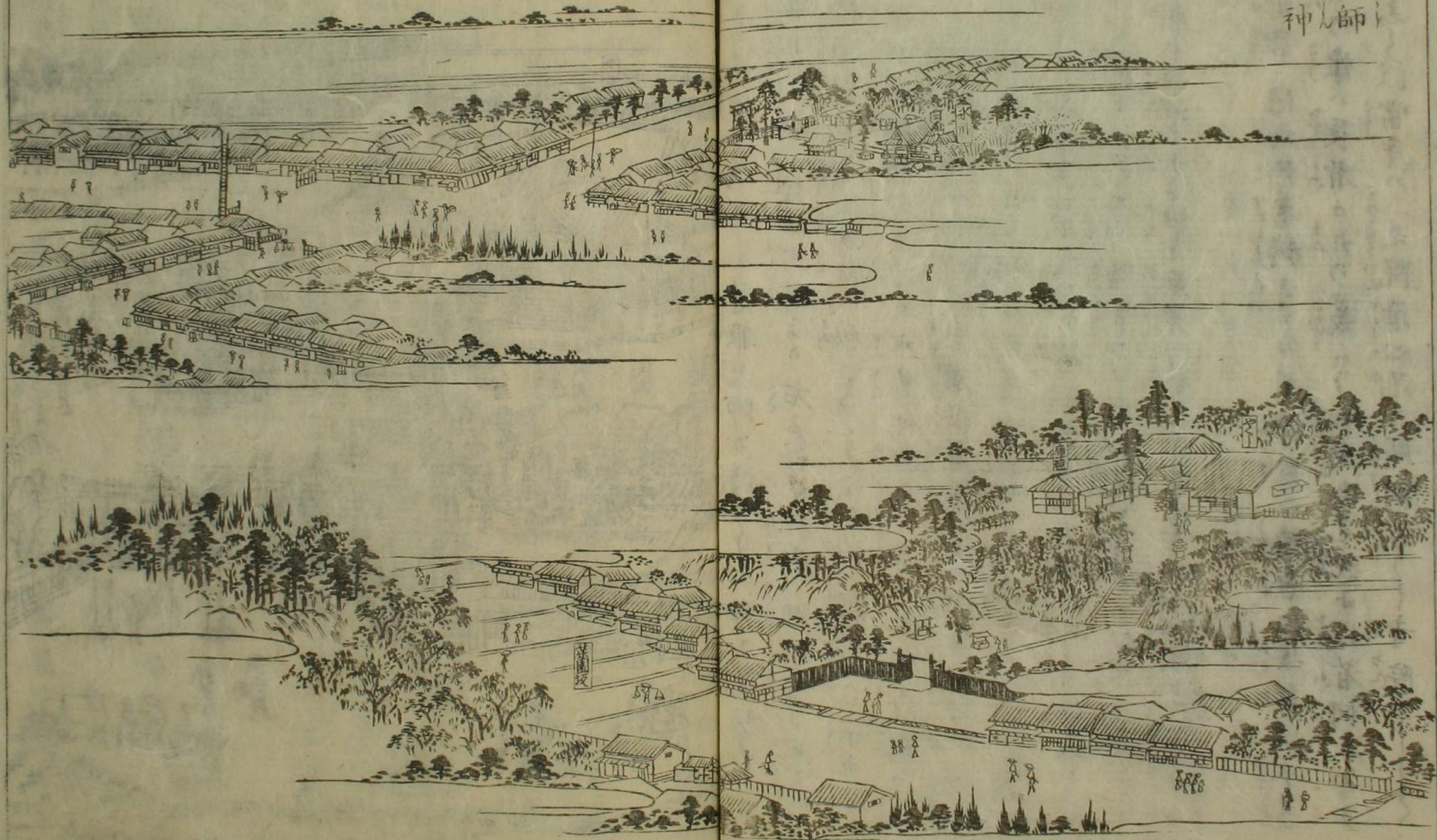
月を歴く此地と共に社を麻布へ移されしとあり

朝日觀世音 同向側專稱寺といふ浄家の精舎に安置し本尊

觀音の像ハ長者丸の叢より出現あり故に作者何人なる

るをあらは當寺ハ三光院清心尼の開創あり寺院あり

七佛薬師
氷川明神



霞山
稻荷社



霊佛ありといふ
清心尼ハ徹田信長公
の侍女中ノ筒井の

子安薬師如来 同南ノ並ハ真言宗正光院といふハ安置す

本尊瑠璃光如来の像ハ恵心僧都の作中ノ一條帝御降

誕の時の御祈願の由ありといふ云々

瑞泉山祥雲禪寺 廣尾町ニあり 北条家西領役帳ニ奥津加賀守櫻田の
内平尾の地を領すとあり云々 櫻田ハ

寺ノ寛花洛大徳寺派の禪刹中ノ中ノ釋者ヲ安置を關山ハ

龍岳大和尚開基ハ松平筑前守長政なり 祥雲ハ則チ支院ハ宇

背ハ赤坂の藩邸ニあり一ノ麻布谷町の上の方

毘沙門天 同所四斗巽の方淡谷川の北岸多門山天現寺と

いふ禪刹ニ安置せり本尊毘沙門天の靈像ハ樟の丸木作

り中ノ聖徳太子の彫造ありといふ 其丈三 相傳ハ多田満仲の

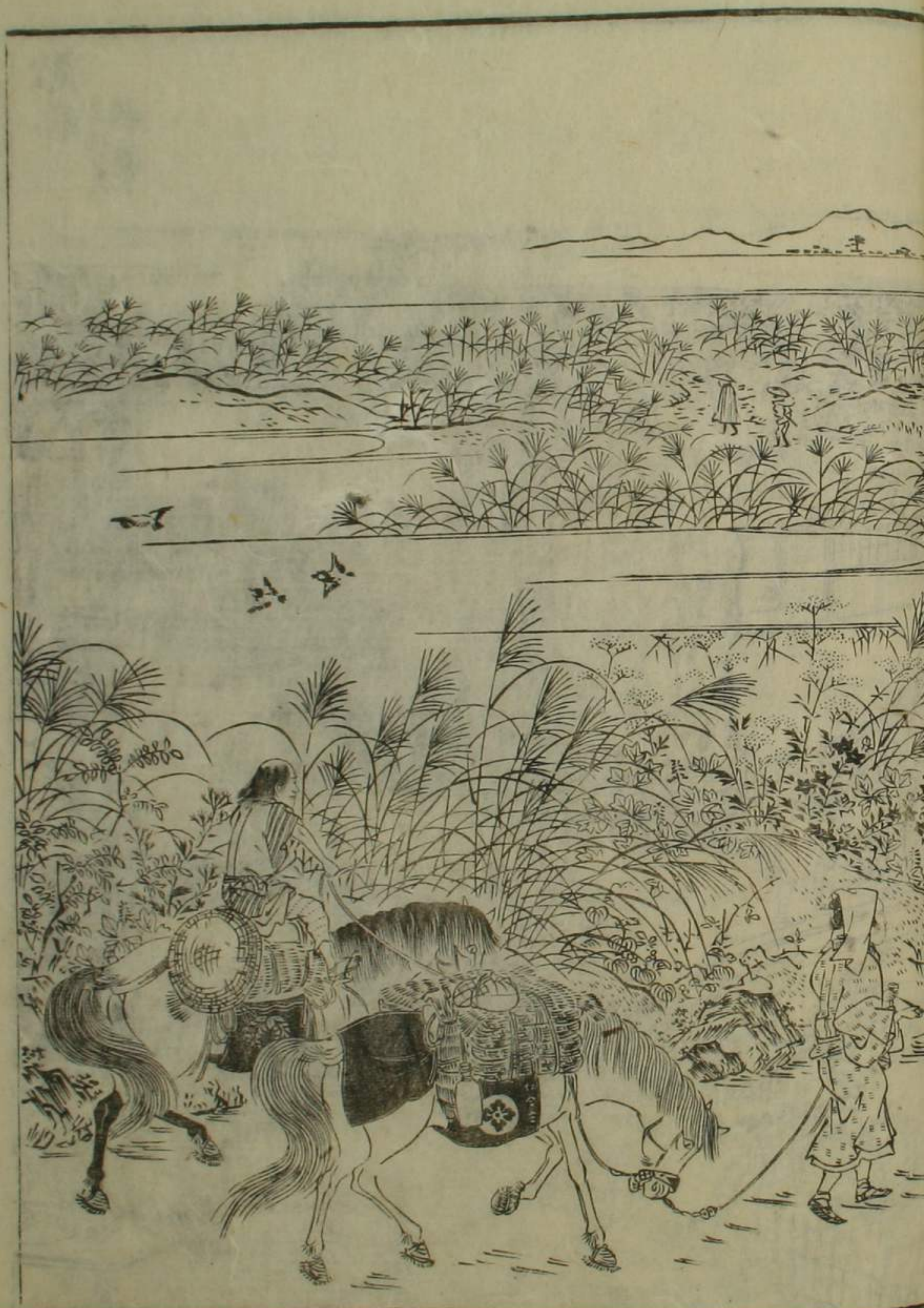
念持佛中ノ源家累代守護の靈像といふ 傳通院殿深く

廣尾
祥雲寺

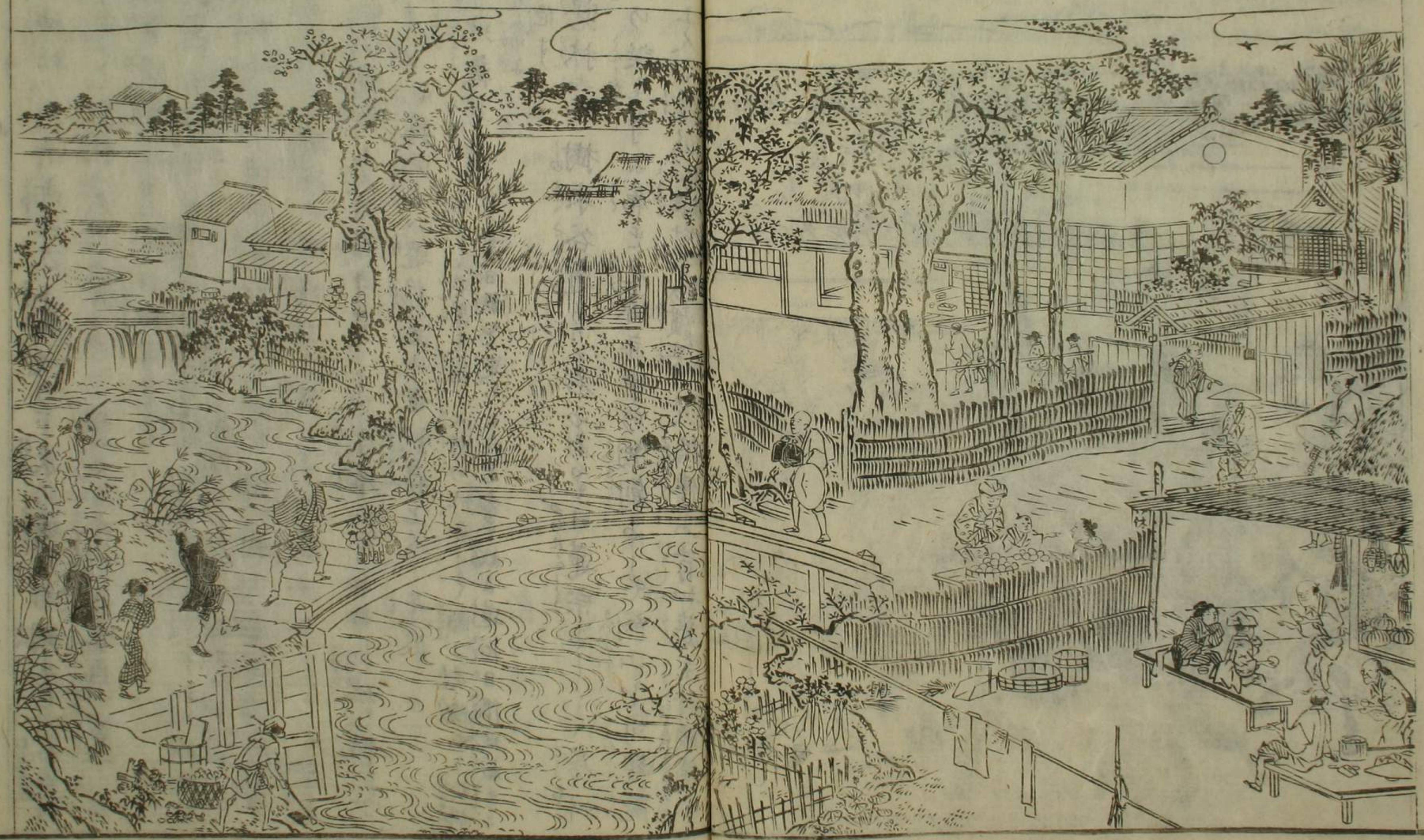


廣尾
毘沙門堂





廣尾
水車



氷川明神社 同所南の方三鉢坂の下東の通り右側より白銀の

鎮守や祭礼ハ九月十九日なり傳云日本武尊當國一宮氷川の

御神と遙拜一歩一歩跡なりと

雷電宮 同社地より相傳ふ白河院の御宇當國疫疾流行す氷川明神の

冬嶺山松秀寺 同所東の方一丁斗を隔つ相州藤澤清浄光寺

の末寺や時宗の道場なり昔ハ武州高井土より常光

寺とのひ遊行上人の宿寺なりと宝曆二年壬申此地へ移れ

其時より中興閑山ハ遊行五十世快存上人より

延命地藏菩薩 當寺ハ安置を徳一大師の作なり願あり祈願

日延上人と号し相傳ふ昔加藤主計頭清正

最正山覺林寺 樹木谷道より右ありと日蓮宗なり房州

小湊の誕生寺ハ属を元禄年中の開創なり閑山を可觀院

朝鮮征伐の時彼國の王子連枝二人を日本へ連らしと

兄ハ高麗日遙上人と号し肥後國本妙寺の開山と弟ハ則日延

上人是なり當寺ハ清正の画像一幅を藏す

正五九月廿四日毎ハ神前より千卷陀羅尼を讀誦す又清正朝鮮征伐

の時兜の内ハ籠られ釋迦如来の像并朝鮮國より軍を

申送られ書簡も何れ閑山上人當寺へ収られ

龍吟山奥雲院 同所坂の上あり曹洞派の禪林なり芝二本

榎廣岳院ハ属す

本尊十一面觀音 世ハ貴賓觀音とも稱す縁起云聖武天皇の御宇

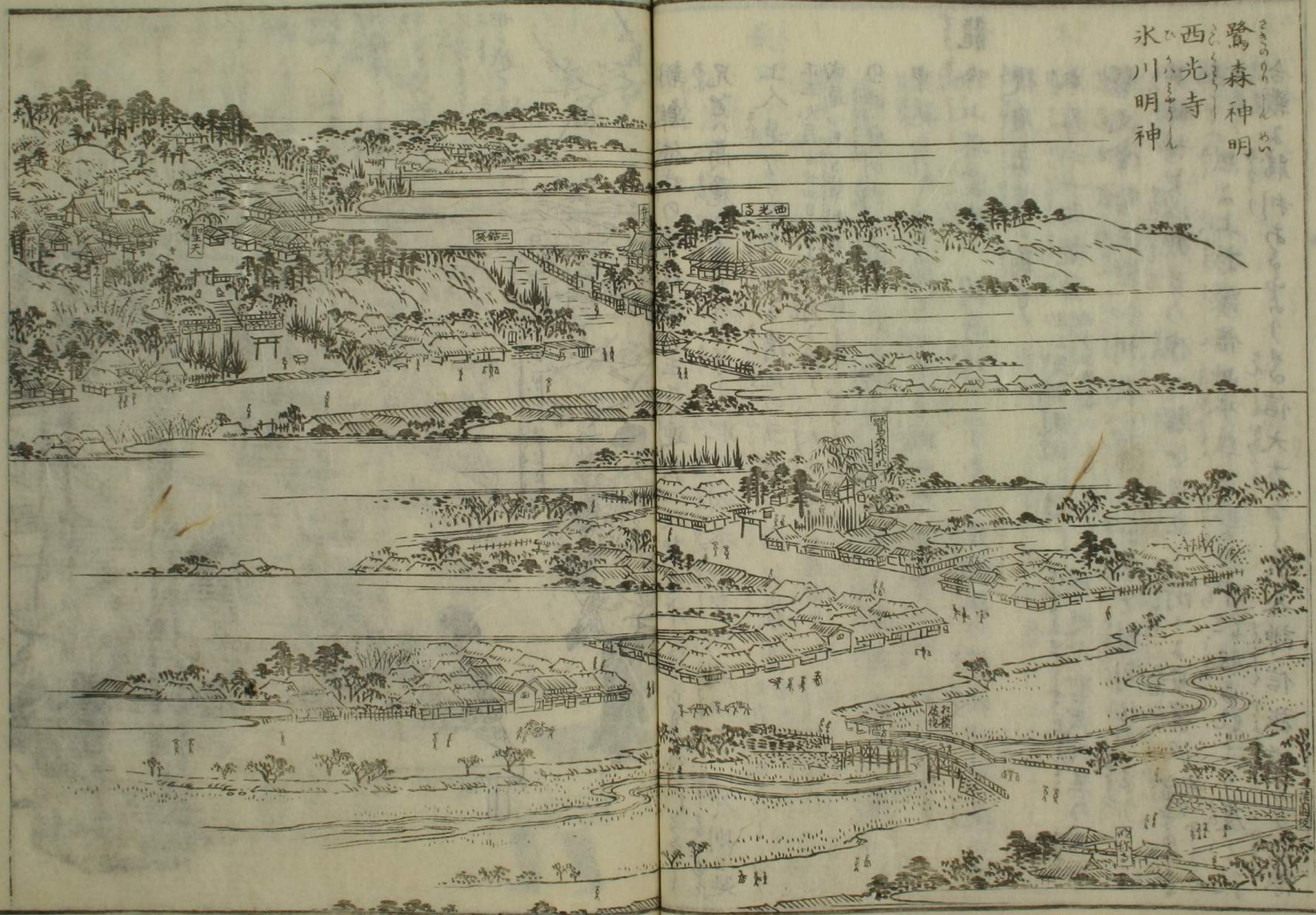
誓文會誓主勲和州長谷寺の觀音を彫刻なり

其餘材を以觀音の像七軀を造立し所ハ安置に

長一丈八寸然上杉謙信此本尊を誓の中に収られ度々此

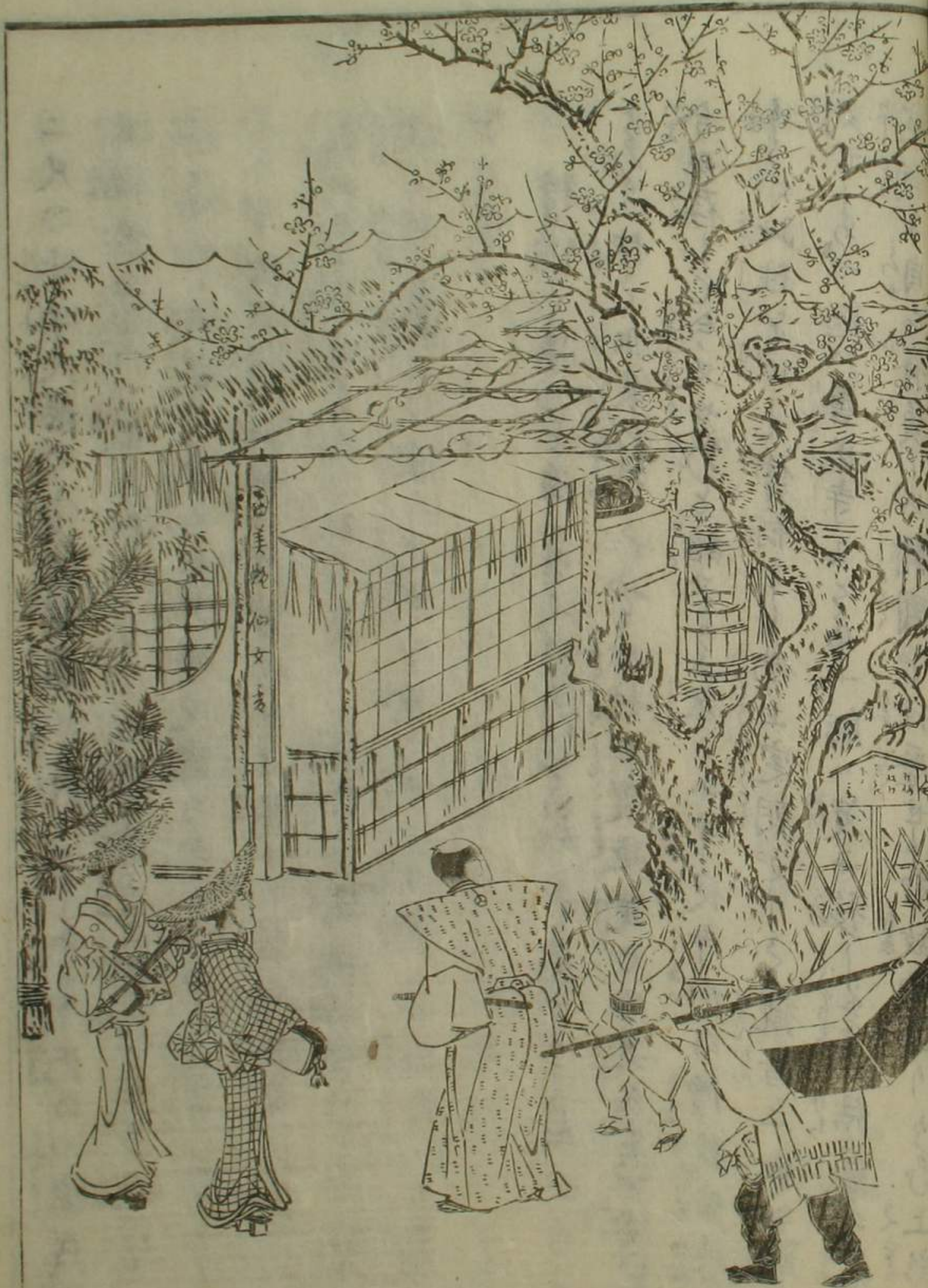
合戦ハ勝利あり信大方あり又謙信旅僧より立像

鷺森神明
西光寺
氷川明神



梅う茶屋

三銘坂より左の方
白銀永川の社に
側あり一年遊行
五十世阿一海
上人此家の梅を
愛たむ一首の
和歌を詠せし
白梅や床梅と
号くは二月の
芬芳も
世に越て高



二尺の千手大悲の像を附属せしめしより先の小像哉
其佛胎の中に籠られしより往昔佛工定朝信州善光寺ふ
赤竈せし頃彼寺焼亡を其時灰燼の中一本の柱焼残す
あり寺僧は問は此柱ハ喪食の柱と稱して當時初建立の時老
翁此本を負来り西の柱とせしと云終る後其方とありす
然る件の柱より夜々光明を放つ中ハ虫食する跡自然ハ文字
をなせり

待僂々唄ひとある諸人の月をいつと急うさるん
とあり依る虫食の柱とあり此柱三度追焼亡の其火災を除け
今も存して今又妙と語る然るふ夜寺内の僧徒皆夢
々々此柱を以て像材とて佛工定朝とて観音二軀を彫
刻せしめ一軀ハ善光寺とて一軀ハ笈小移し結縁の爲
定朝は自ら背負し諸國を往歴せむ故やありとの心上杉

花

城天満宮

同所南の方よりお久寺とて禪林ハ安置に

神躰

すハ分菅公の御作ありといひ相傳ふ仁和二年菅公四十

二歳まなせし春除厄の爲は自彫刻しあり

十五歳の時念願成就の爲遠らせ

又云此像ハ延喜元年大宰帥に左遷せし彼地に至る頃河内國土師里に在る所叔母君の

方へ立寄らせし御記念としてせし肖像なりと傳

文祿の頃加藤家の臣山田氏

英

一蝶翁墓

同所より二町を南の方二本榎の通り左側義教

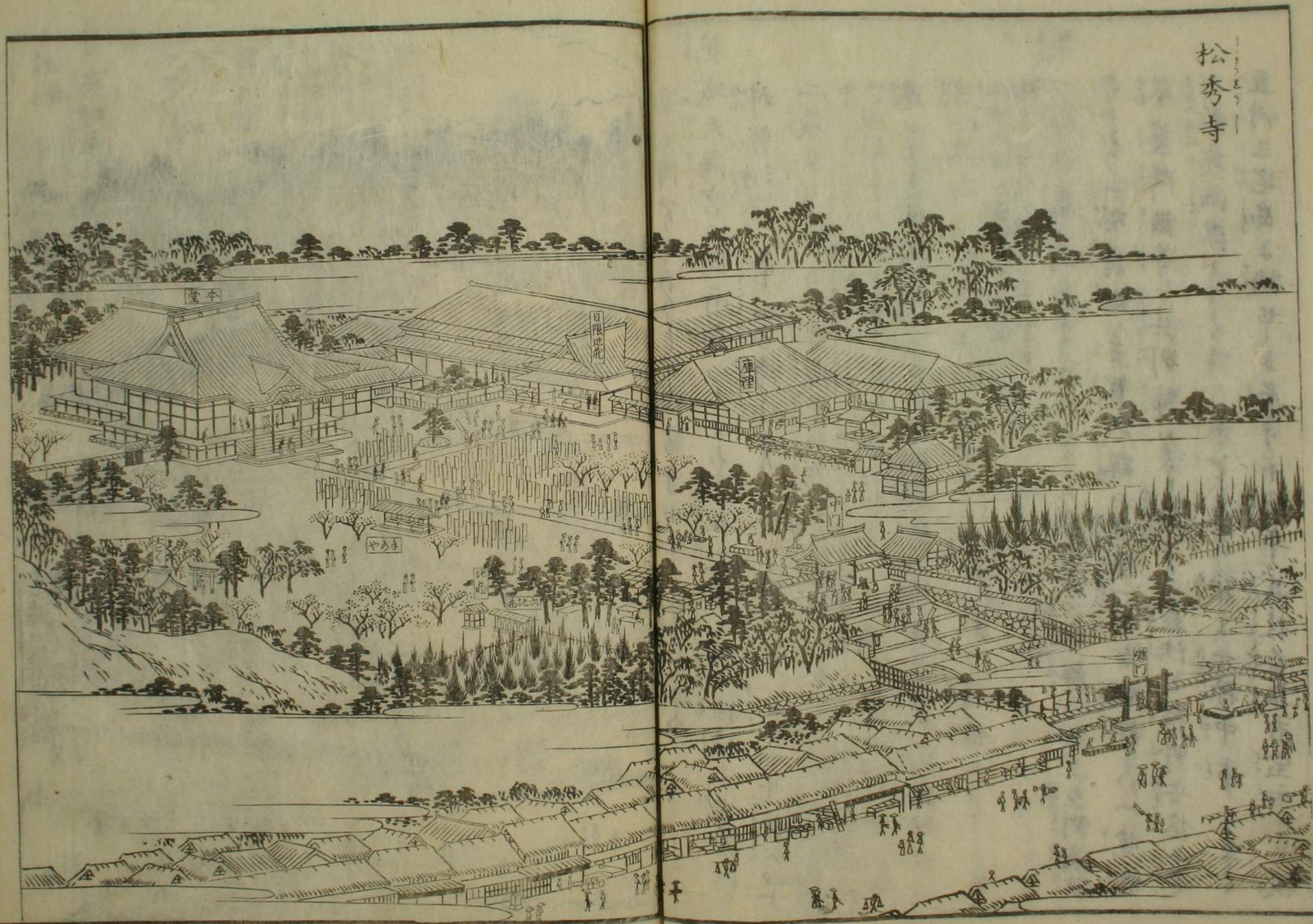
寺あり一蝶翁姓ハ多賀氏諱ハ信香一名を朝湖といひ曉雲

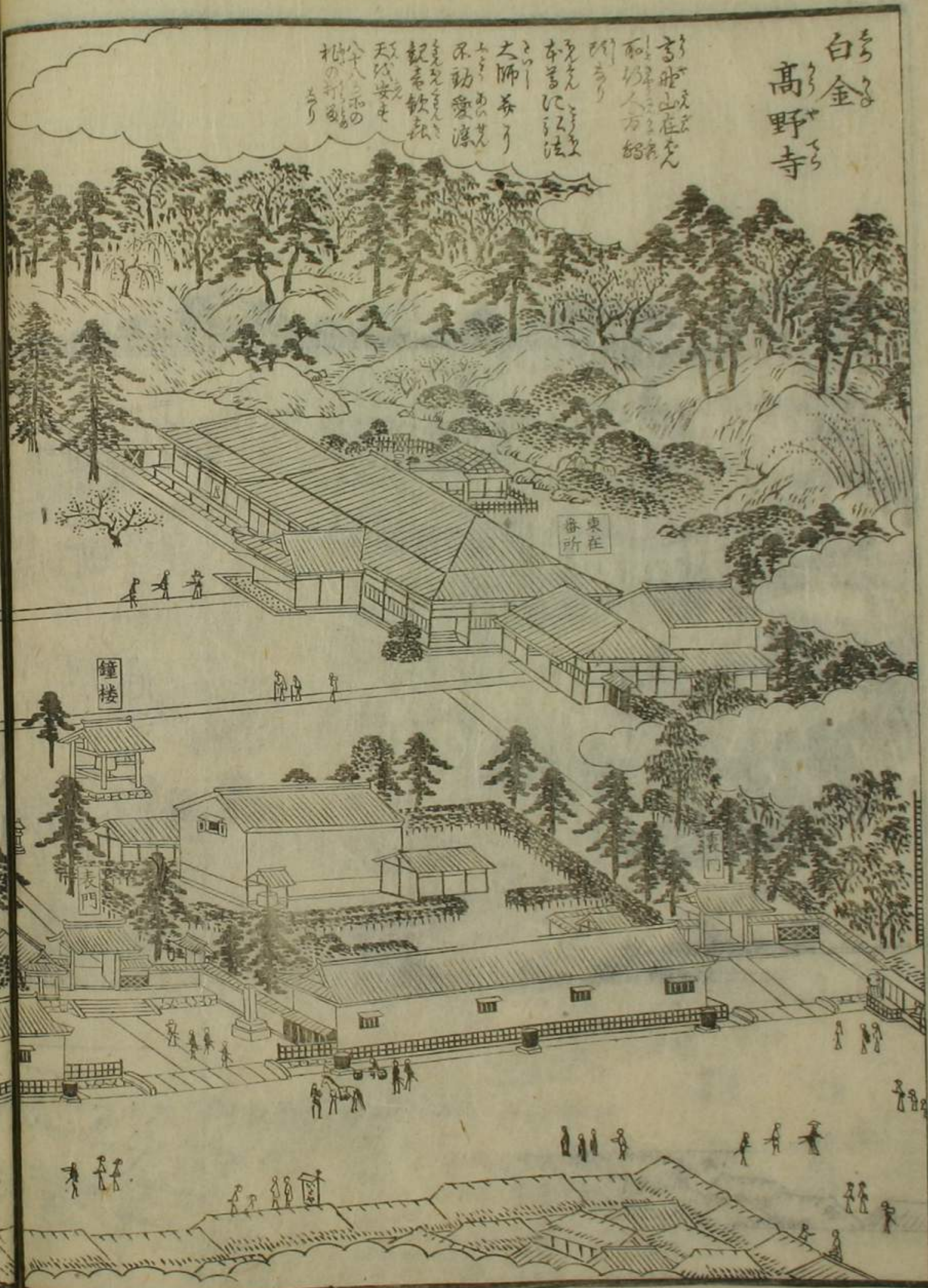
翠蓑隣樵等ハ其別號なり幼より畫法を狩野安信に受

尤新意洒落なり後一家をのり然る元禄中事し坐す

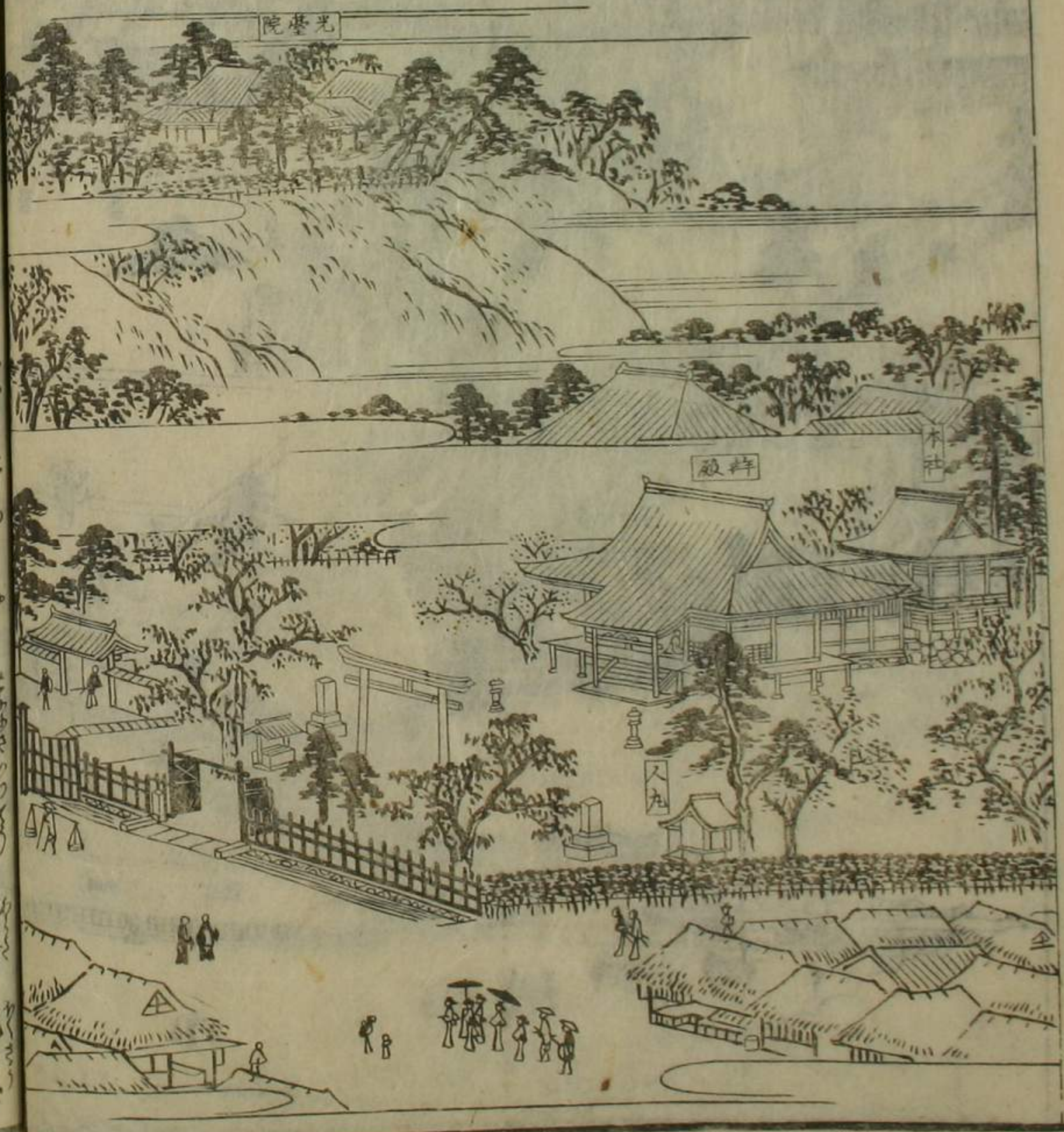
豆州三宅島に謫せし居り十餘年其技益進む宝永己丑赦

松秀寺



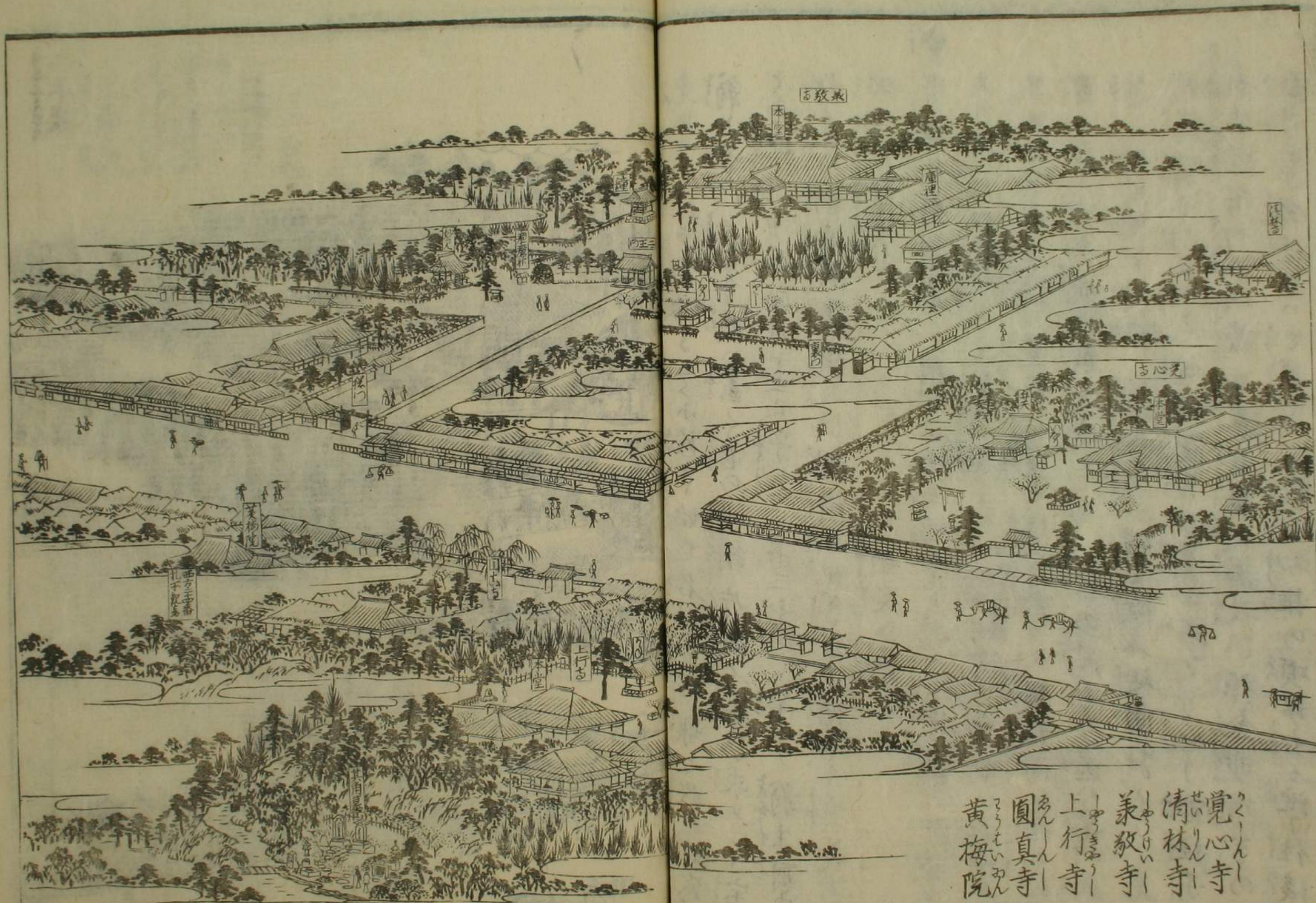


花城天満宮

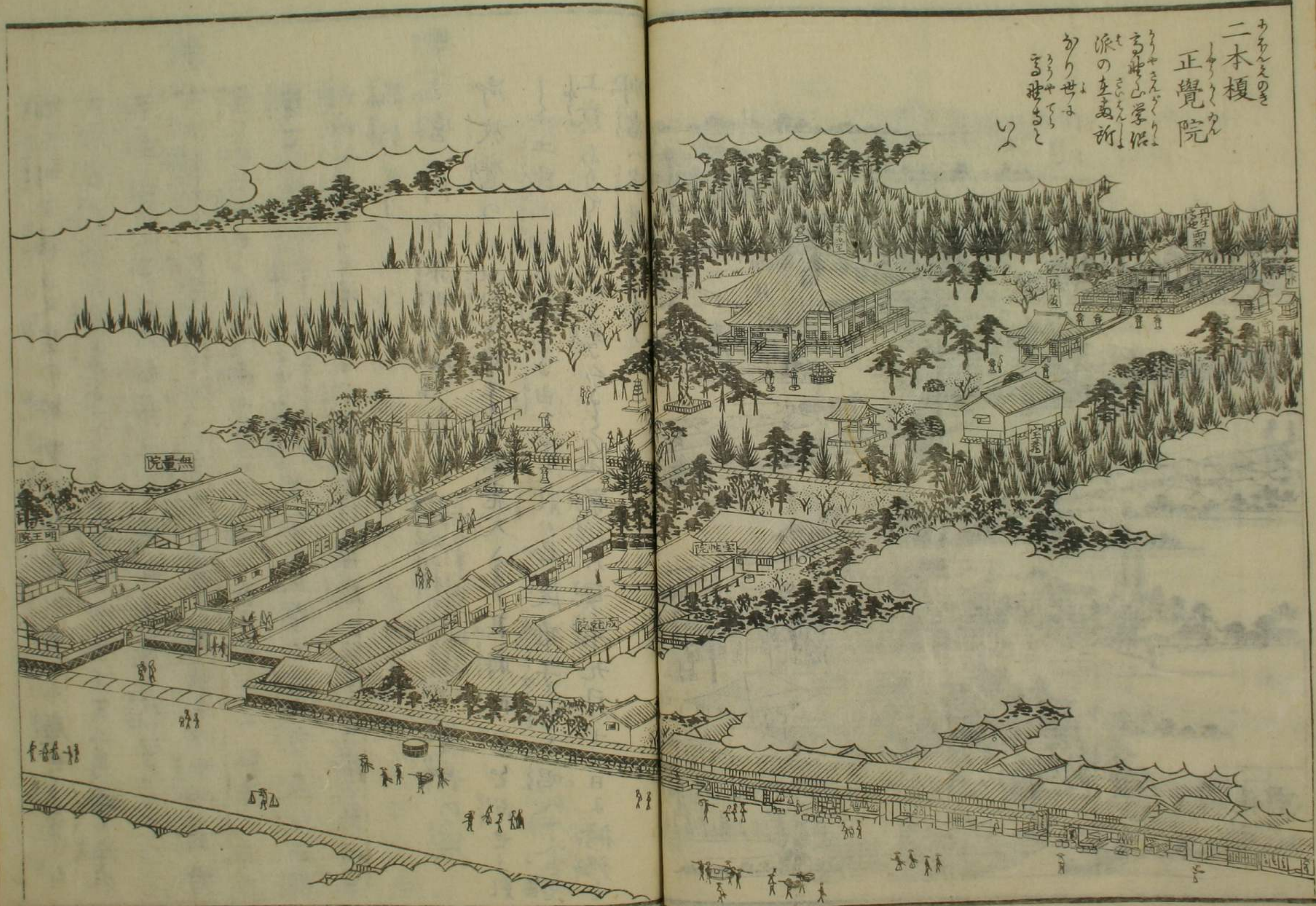


免ありて江戸に帰るるふ於て始て名を英一蝶と改め北窓
翁と号に夫より後ハ畫く所の尺絹片紙人争ひ求めく宝
と也享保甲辰正月十三日享年七十三やて卒す翁生前小
作の朝妻舟畫及ひ朝清水泥等世に傳へく賞美す
俳師芭蕉其角と同時の人やとく朋友とく

寶晉齋其角翁墓 同向小側上行寺とある日蓮宗の寺境に
あり其角姓ハ竹下父を東順といふ 江州堅田の人 榎本といふ
其母の姓なり 儒ハ寛齋先生小学ひ詩ハ大巔和尚を師とに
書ハ佐々木玄龍の教を受く自一家の風あり 医ハ草川氏
某は就て術を得画ハ朋友英一蝶は倣ふ延宝に生れ 免
芭蕉翁の門に入り俳諧を學ひ竟る名となせり 雷柱子
狂雷堂有竹居六蔵庵善哉庵文庵及ひ螺舎涉川等の
数号あり 晋子といふ戯号あり 幼推の頃坂むら池に住後



覺心寺
 清林寺
 兼教寺
 上行寺
 圓真寺
 黃梅院



二木榎
正覺院
高野山學侶
派の在處所
ありせむ
高野山と
いふ

堀江町は移る又芝の神明町茅場町等も庵せり
五元集其餘の俳書ふんそくを宝永四年丁亥二月晦日卒に
享年四十七著所の俳書凡二十餘部各世に傳る

高野山宿寺 正覚院と号し真言古義の觸頭あり世俗高野
寺とのと稱せり同所南の方一丁少ありなり弘法大師の
像なり四十二歳ありせり門を入る本堂の右の方丹生高野
兩神の祠あり堂前小三鉢松あり毎歳三月廿一日少影供と
修りせり

雉子宮 同所藤町の坂口あり此辺谷山村の内あり或慶長の頃

御放鷹の時此社へ雉子一羽飛入る其時神名を問せられ
し土民山神の祠ある由や上られ已後雉子宮と唱へしを
上意ありてより号するのみ祭礼は毎年九月十五日は修り
別當八宝塔寺なり

鳥のた 雉子の宮あり

かりかゝる人もあり此の食里をたて名するひん 茂睡
按當社武蔵國風王記に所謂荏原神社あり同書は荏原神社と祭神
天手力雄余あり天智天皇六年始神ありと記せり當社を山神と稱
するは旧より信州戸隠の神を祭る所ありと云ふ

元三大師堂 同所白雉山宝塔寺とて天台宗の寺院に安置に

當寺ハ則雉子宮の別當より本寺ハ東叡山の元三大師能画
像と同筆の真影なり靈威照く例月三日開帳あり此
辺を大崎と云古へハ海濱なり此地より東の方品川迄の間狹の
形は似たりと云袖崎とも呼へり

紫雲山瑞聖寺 白銀臺町にあり黄檗派の禪林なり寛文

年間木庵和尚開基也鐵牛和尚佛殿ハ釋迦如来脇士ハ迦葉
阿難等の像を置き毎歳七月十五日大施餓鬼あり

前銘并引 武蔵州荏原郡三田庄白金村新開紫雲山瑞聖禪

雉
の
宮



寺去城二里餘其地廣莫前朝東海後接目至黑然其
所唱始者青木甲斐守端山居士之竭力矣而所建
門大然方丈植以大鎮安小能捨身財之端若諫而
院捐金洪鐘以銘人門託此勝因追薦妙嚴樂并印
立金壽母心光請為銘如斯功德福而不可思議即
花居士慈等其銘院夫山門能此勝因追薦妙嚴樂
幽靈野為銘請為銘如斯功德福而不可思議即不
辭才謹為銘院夫山門能此勝因追薦妙嚴樂并印
須彌舒大地餘若功德至大矣如存者往者初
扣法界同證無餘是功德至大矣如存者往者初
十方舒大地餘若功德至大矣如存者往者初
福寧永於一年歲次辛亥孟春穀旦
鐘維再鑄銘并引僧丑春二月羅回祿堂宇燒燼洪
鐘時銘天享二歲次鐘僧丑春二月羅回祿堂宇燒燼洪
維時銘天享二歲次鐘僧丑春二月羅回祿堂宇燒燼洪
一火鑄成巨鐘
晨皆扣擊解煩夢
教體分無漸次
國悠久氏安泰
延亨二同歲中秋吉旦
鑄工月且限謹誌
藤原勝行

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿
軒文揭
寬文辛亥正
月吉日立
山嗣祖
木庵書

紫雲山

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿
軒文揭
寬文辛亥正
月吉日立
山嗣祖
木庵書

紫雲山

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿
軒文揭
寬文辛亥正
月吉日立
山嗣祖
木庵書

紫雲山

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿
軒文揭
寬文辛亥正
月吉日立
山嗣祖
木庵書

紫雲山

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿
軒文揭
寬文辛亥正
月吉日立
山嗣祖
木庵書

紫雲山

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿
軒文揭
寬文辛亥正
月吉日立
山嗣祖
木庵書

紫雲山

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿
軒文揭
寬文辛亥正
月吉日立
山嗣祖
木庵書

紫雲山

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿
軒文揭
寬文辛亥正
月吉日立
山嗣祖
木庵書

紫雲山

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿
軒文揭
寬文辛亥正
月吉日立
山嗣祖
木庵書

紫雲山

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿
軒文揭
寬文辛亥正
月吉日立
山嗣祖
木庵書

紫雲山

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿
軒文揭
寬文辛亥正
月吉日立
山嗣祖
木庵書

紫雲山

瑞
聖
寺



蓮佛場
軒黄本
聯當寺
三十三
書世若
書表冲
書盈

牌堂額
報恩堂
筆宗雲

大用現お時欽山鉄壁以遠る
宣統活表安不公電光松是延

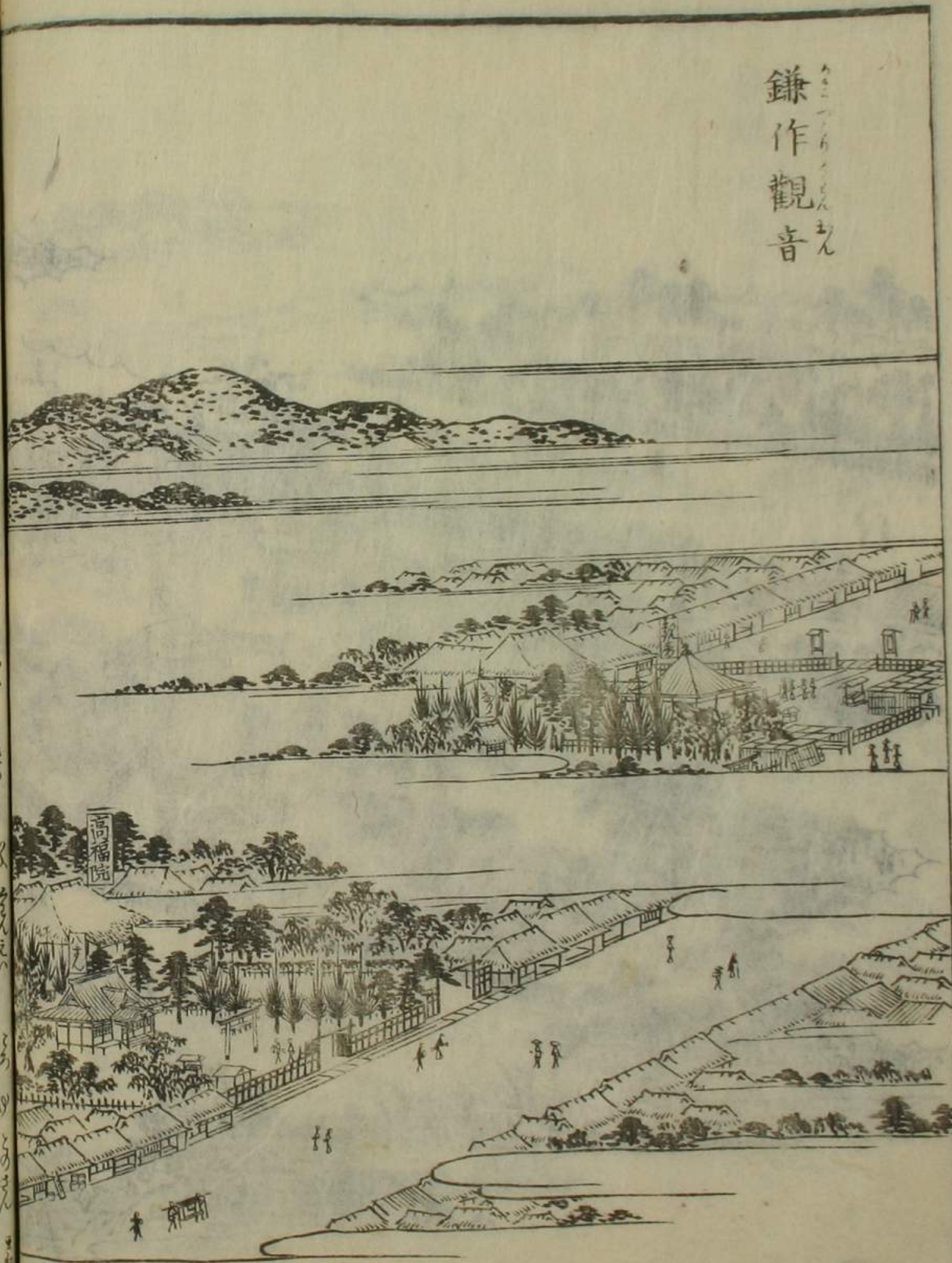
當寺ハ寛文十一年辛亥青木甲斐守端山居士旨を奉りて此地に
就く一精舎を営む當寺黄檗本師を請りて開山とて開堂の日
鐵牛和尚以て首座とて秉拂提唱せむ甲寅秋黄檗
和尚再び瑞聖住師を命りて分座説法人天悦服す乙卯
三月和尚旨を奉り師を以て紫雲の継席とて遠近の道俗来て
戒を求む者指屈せむふとて丁巳春大清主左都督揚
大帥師の道化を慕ひ三章を贈る其一日臨濟正宗三十三世其二日僧
明溪り五百大阿羅漢の像五十餘幅ありひふ師の肖像を画く

今猶鎮守の宝とて當寺ハ本山の光景を模擬せる所なり
其経営頗る他に異あり江戸黄檗宗最初創建の伽藍あり
妙見大菩薩同所三丁斗西の方道より左側日蓮宗妙圓寺に
あり足利將軍尊氏公の念持佛ありととり
鎌作觀世音同西の方一町半斗向ふ側六軒茶屋町の角真言
宗光雲寺あり相傳ふ神龜年間行基菩薩諸國遊化の
頃信州更級ふ始て掛錫しあり平山と云ふの池中より此本尊
出現あり又空中より化人あり鎌作御衣ホを持て降臨
あり彼觀音の像を彫刻し行基を授けあり
誕生八幡宮同所同一側一町斗を隔つて永峯町あり文明の
頃筑前宇美の地より勸清を祭る所の神ハ神功皇后一座
なり本地佛ハ別當ハ真言宗高福院と号れ八月十五日を祭
祀の辰とす

白銀妙見堂
しろぎんみょうけんどう



鎌作觀音



行人坂 同所同西の方目黒へ下る坂と云寛永の頃湯殿山の行

者某大日如来の堂と建立一圓寺と号此寺今ハ

般若塚 同坂の半道の側あり延享三年縁山清林院の本食心營一道路未尚

般若心經三十卷と書写あり此地中ハ

五百阿羅漢石像 同道の左あり明和九年壬辰三月二十八日二十九日西

立也 大火焼死せし者の迷魂を弔ひあはる人恩と建

松樹山明王院 同所坂の側あり天台宗中々東叡山に属せ

本尊阿弥陀如来脇士觀音勢至と安置せり閑山と榮運法師

との常念佛の道場なり頗る殊勝なり毎月四日報恩念佛

百万遍修りあり此常念佛西連と云

子安觀世音 同坂の側あり長州檀浦生現の靈像あり元禄元年辛六部

當寺主仙順と云此坂の側あり長州檀浦生現の靈像あり元禄元年辛六部

辨財天祠 同坂の側あり長州檀浦生現の靈像あり元禄元年辛六部

當寺主仙順と云此坂の側あり長州檀浦生現の靈像あり元禄元年辛六部

夕日岡
行人坂



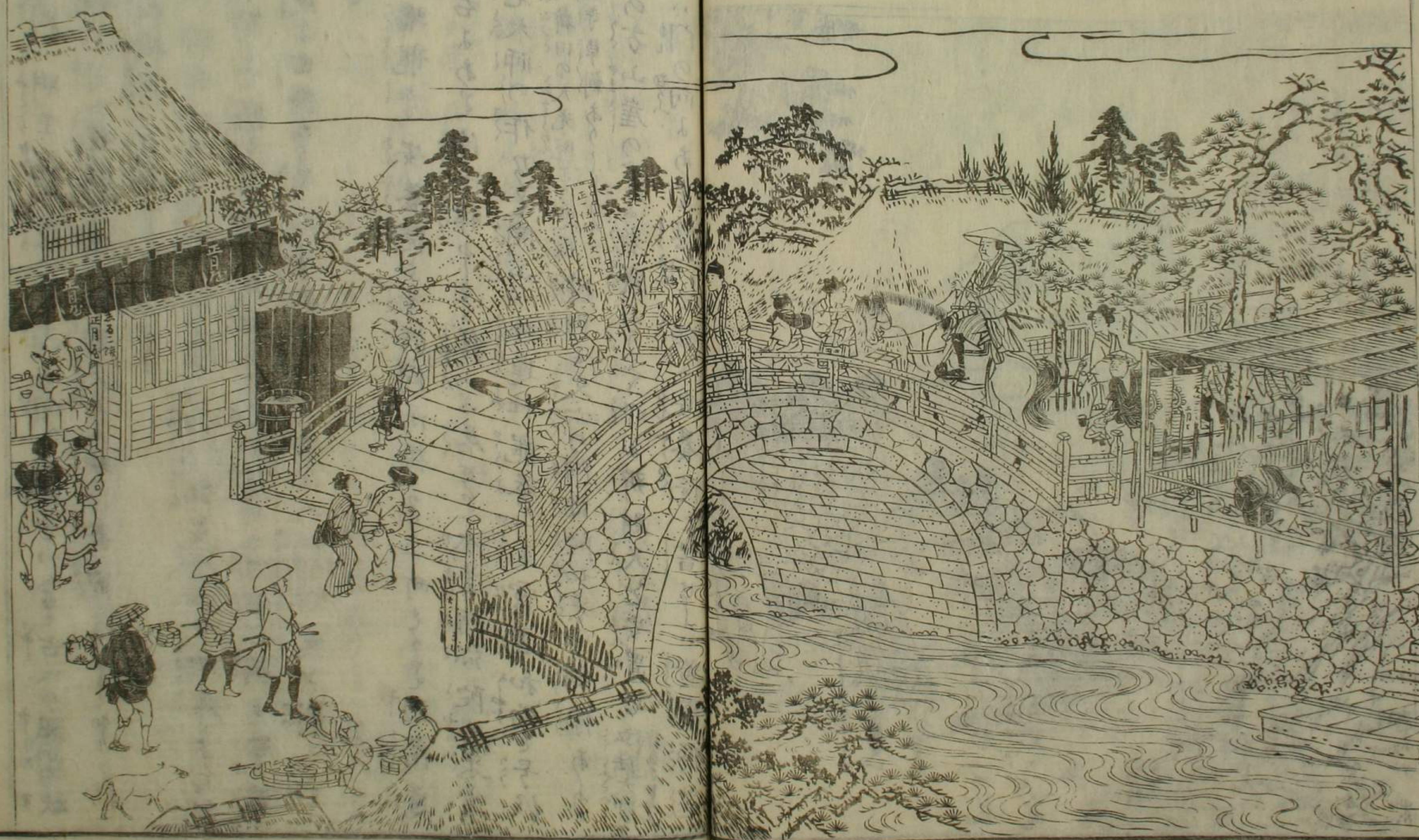
富士見茶亭
 西南遙望
 けく芙蓉の白
 峯を望む風儀
 雲を掃く正
 玄々の色とあ
 らうとこれに
 然として又姿を
 失ふ須臾は
 定るなり時
 しく其觀を
 改む実
 佳景あり



常時
 如く
 三日月
 地
 杭青



太鼓橋
おこし



夕日の岡 明王院の後の方西は向へる岡をいへる古へハ楓樹数
株梢を交へ晩秋の頃ハ紅葉夕日は映し奇観なりとありされと
今ハ楓樹少く只名のみを存せり

大鼓橋 同所坂下の小川に架せり 目黒川柱を用ひて兩岸より石を
疊ぎて橋とす故に横面より是を望めハ大鼓の胴ハ髣髴
なり故に世俗あり号く享保の末木食上人ハ嘗て是を制する

霊雲山蟠龍寺 安養院と号し同所橋より一町を隔て西南道

より右よりあり浄土律より縁山に属せり本寺阿弥陀如来を
慈覚大師の作なり関山ハ吟蓮社龍譽一雨霊雲和尚と号し
上野國新田の大光院より退隱 境内ハ丈六の阿弥陀如来の銅像あり
又後の方山崖の下に岩窟あり中に辨財天を安置せり弘法大師の
本宮ハ門の向よりあり惣門の額ハ安養院と書せりハ黄檗獨湛

和尚の筆なり

卧龍山安養院 能仁寺と号し同所あり天台宗より龍泉

寺に属せり本尊涅槃釋迦像ハ空譽上人の作なり當寺を
法華讀誦社名念佛の道場なり

蛸薬師如来 同所町家の巽の隅にあり天台宗成就院境内ハ安養
本寺薬師如来ハ慈覚大師の作なり世俗傳へ云此寺ハ祈願
ある者ハ蛸を断る是を念むハ果し利益ありと云僧馬也

蛸の形を畫し捧ぐ

目黒不動堂 同所の西百歩のありあり泰叡山龍泉寺と号
す天台宗より東叡山に属せり関山ハ慈覚大師中興

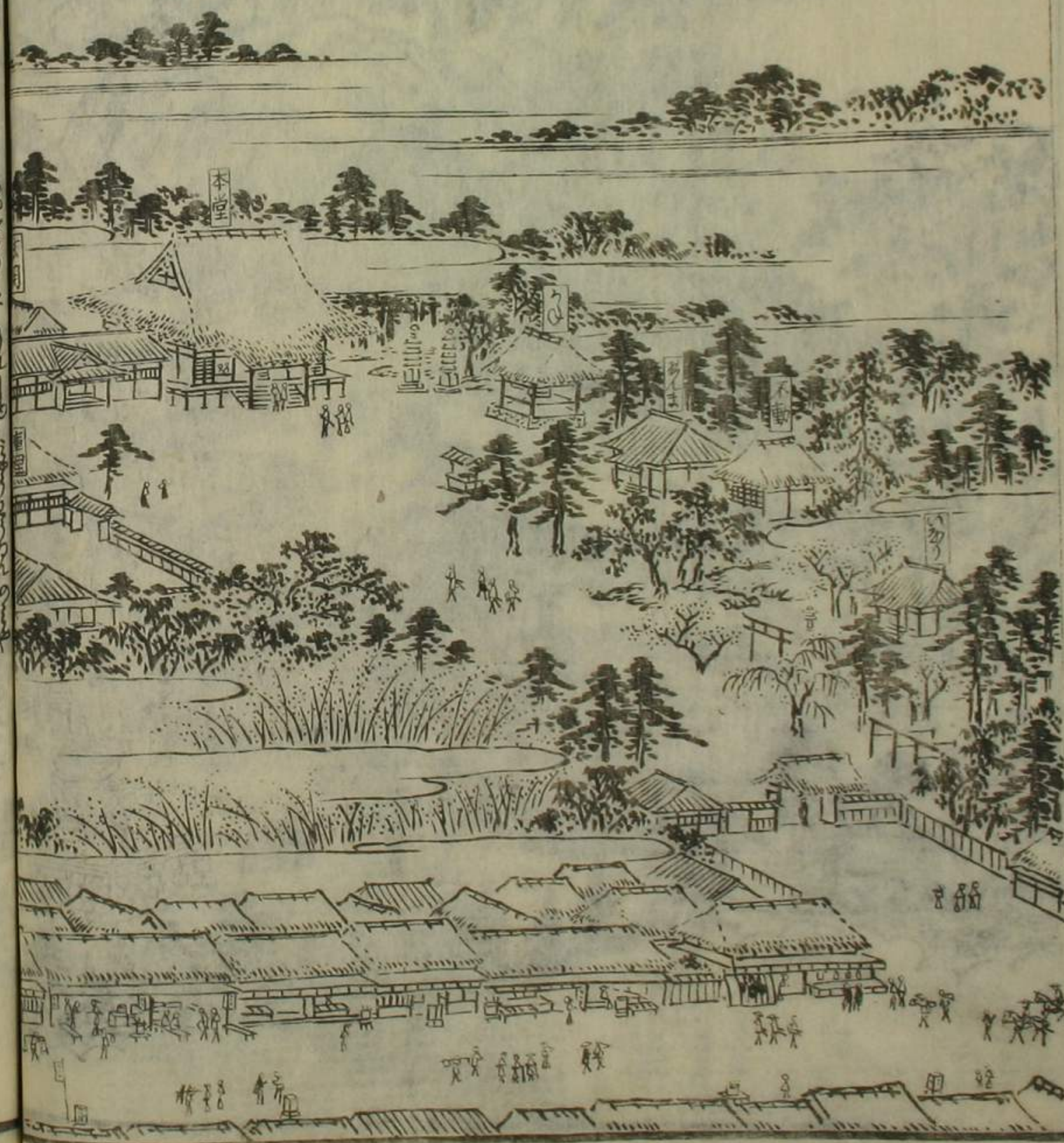
慈海僧正なり

本堂不動明王慈覚大師作脇士ハ八大童子なり
本殿額 泰叡山 後西院御筆 樓門額 泰叡山 後水尾帝御筆

本
蟠龍寺
窟辨天祠



寐釋迦堂



鳥井額 泰嚴山 日光御門主明王院宮御筆

經藏 一代藏經 阿彌陀佛 惠比須大黑祠 鐘樓 水神宮 愛深明王

大行事權現 此地地主神 祭神高皇產靈 石不動 右にあり

稻荷祠 地藏尊 二童子 聖觀音 閑山堂 聖德太子

天照太神宮 本地大日如來 切替 聖觀音 閑山堂 聖德太子

天満宮 鬼子母神 十羅刹女祠 虚空藏堂 遮軍神祠

結神祠 役小角 女坂の中程より 銅像 三佛堂 彌陀

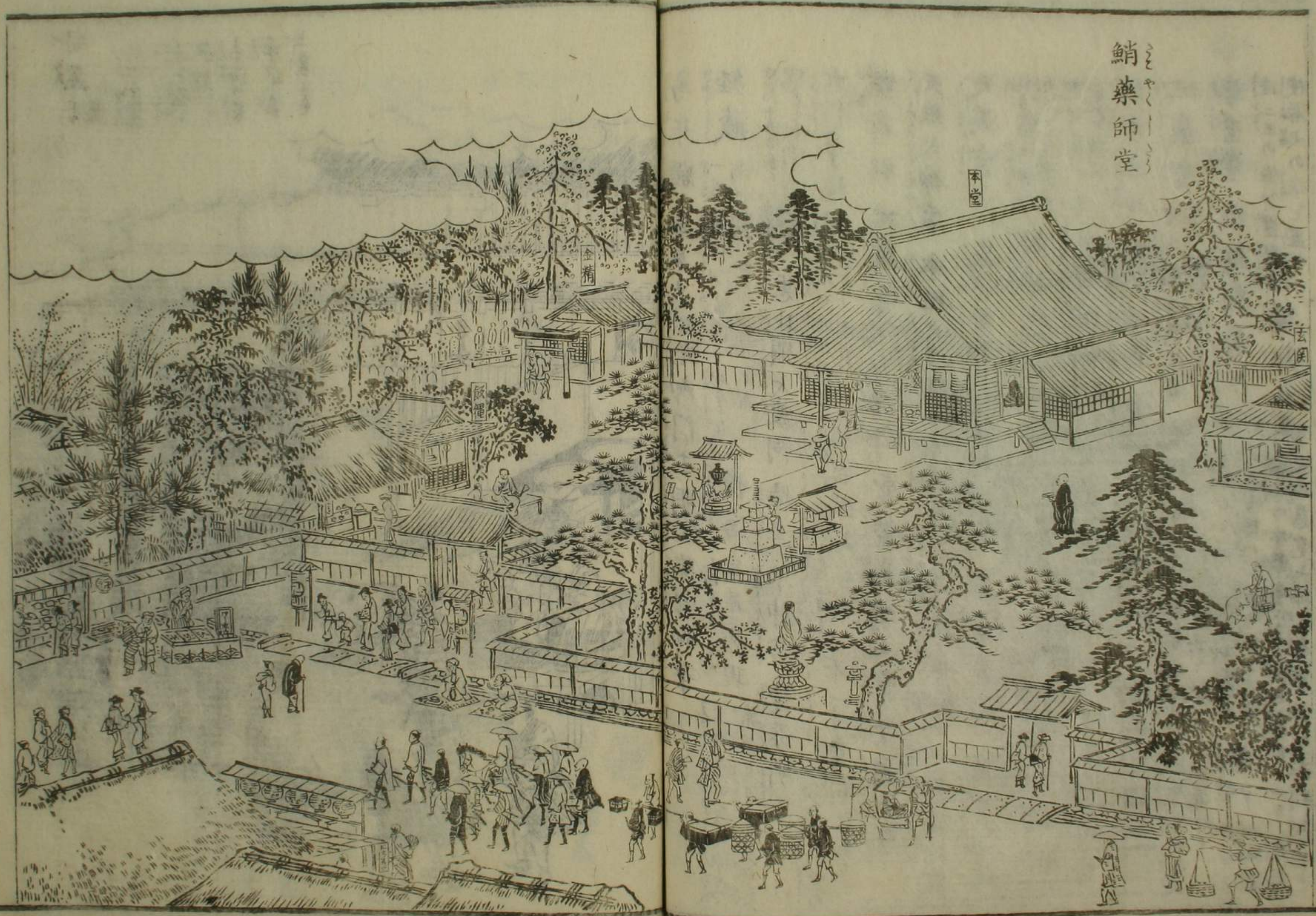
秋葉權現 六所明神 荒神宮 右の方より 辨財天祠 江島弁天

地藏堂 堂内 稻王脱衣婆 觀音堂 中より 聖觀音 廻り 西國坂東救父

勢至堂 稻荷祠 前不動 左右より 十二天の像を安置す 樓門 左右より

使者の像を置き 獨鈷の龍 關山慈覺大師入唐帰朝の淺閑東下と

銷藥師堂



同わ
黒くろ
飴あめ

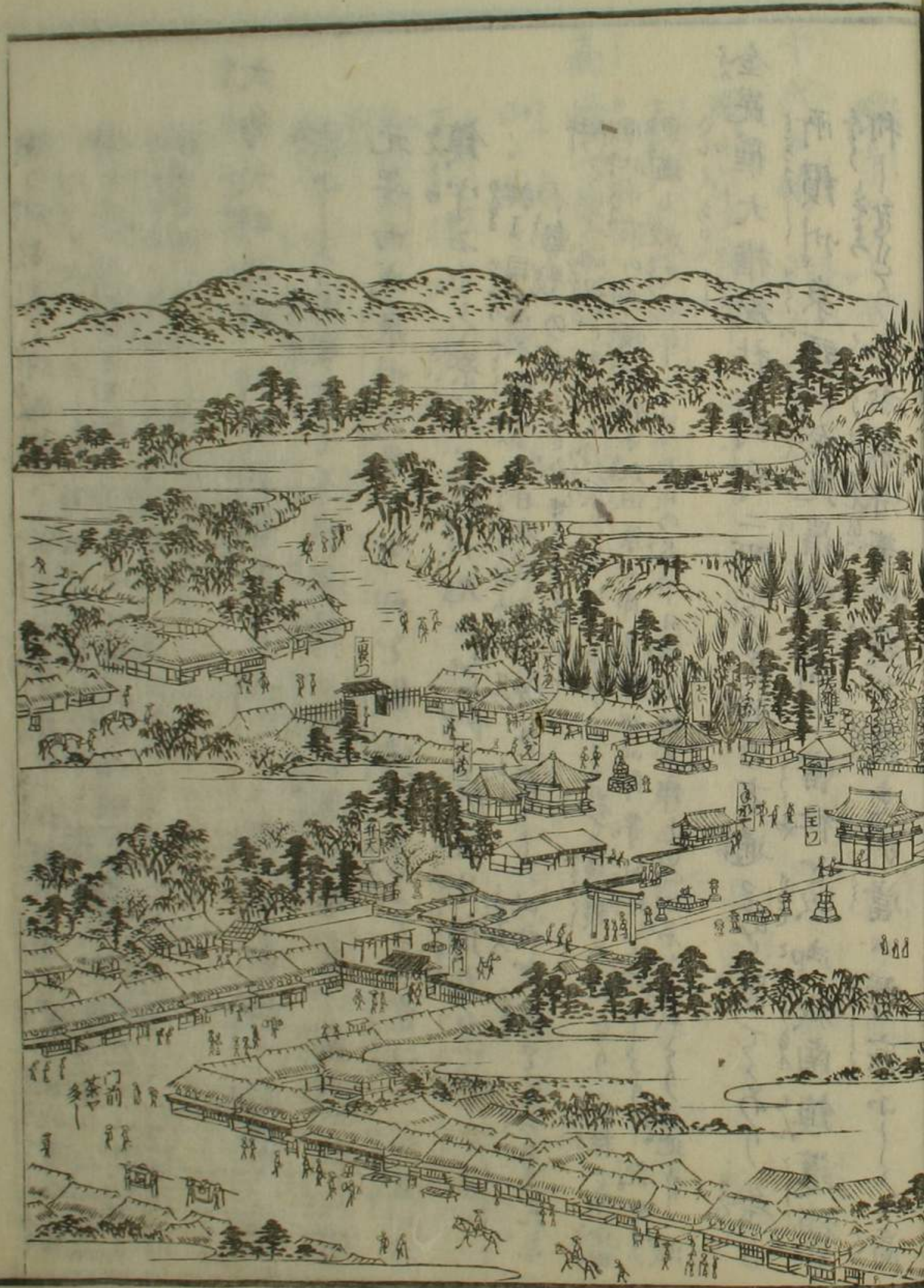


多し頃此地に至る独鉈并せり此地を穿ち得る事ありと常々泉源とす
派落炎天早巻とすも圓く未だ目黒一村の松田より引用とす昔ハ三口
江島江島の飛天小祈請しなり再ハ元のやと故は今年當寺江島の
飛天へ衆僧を請ふ事請せしむる意慢鷹居の松田名号ハ松又腰掛松と号く
寛永の頃大樹此地に遊獵あり其時鷹居の松田の下ありて蒼く
實繁ハ竹の旨ありて祈念せしむ然らばなり中鷹居の松田より依り
所感ありなり此松鷹居松の名をとりて

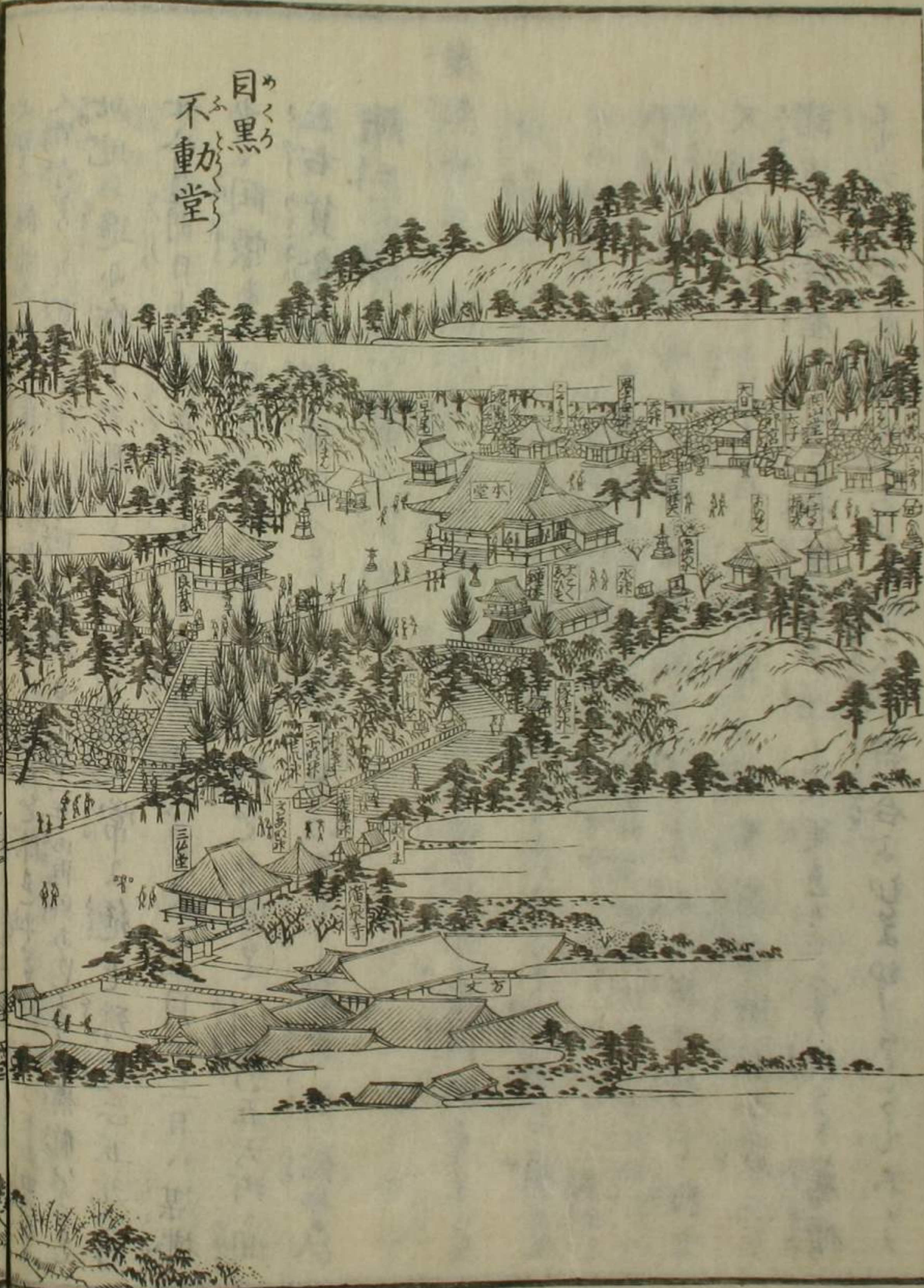
縁起云平城帝の大同三年慈覺大師本國下野國より叡山に
赴き頃頃此地に投宿あり然る其夜の夢中明王靈尔ありて
永く此地に跡を虫群生を度せんと曰くさて覺ると翌日夢中
拜する所の尊容を摸して今の如きを彫刻し當山に安置し
或人云此地ハ日本武を鎮めあり慈覺大師此地往歴の頃不動の像を
彫刻し神跡を擬せし其故ハ日本武を敗河に待し山徒放火し
難を蒙り其時其の所より聚雲の劍を抜き其の劍を切ち燃來る草を
難拂ひし其火の中より立し人形相し明王の形に似しと云ふ
大と當山の使者とす此の如くありて千歳の今は甫と云ふ理智
圓明の威力廣大なりと樓羅焰の徳用深妙なり
元和元年の春

此地ハ遙小都下を離るる所也諸人常々絶を殊更五九の月
廿八日前日より終夜群参し甚賑へり又十二月十三日ハ煤拂
めく開帳あり是も前夜より参詣群をなせり門前五六町間
左右貨食店軒端をつとて詣人をつとてむ粟餅飴銘也ハ
餅花の類ひと驚く家多し

虚無僧寺 同所門前大路の西にあり普化宗金洗派なり
東昌寺と号し扣番所と称し本寺ありあり或風呂屋とも
唱金洗派活慈悲派西向派安樂派水戸八箇寺あり惣本寺の番所と
西光寺 雍州府志に虚無空寂を宗とす故ハ虚無僧と称し
又薦僧とも書し意ハ其徒常々風餐露宿險難を厭はず
諸方を経歴し至る不庭薦座に足きりし仍く薦僧
とも云中世暮露と云あり職人尽奇合ふむまじしとあり



目黒
不動堂



洛の妙安寺に朗庵と号する異僧あり紫野の一体和尚は親と常は風穴道人と稱す尺八を吹きたるあり風穴庵の作略を慕ひしあり始宇治の吸江庵に住す世に云ふの歴々僧の妙寺ありん東廬西州風穴道人の門下あり明恵上人の草庵あり普化和尚の流派といふとも風穴のうしと題を取みなしとあり明恵上人の草庵あり親好法師のつもと草庵ありとあり

大鳥大明神社 同所不動より北の方二町を隔つ別當ハ天台

宗より大聖院と号し祭神日本武尊一座なり相傳ハ大同

元年丙戌泉州大鳥の御神と勸清しなると當社ハ目黒村の

鎮守あり祭礼ハ正月の九日を例とし此日角力興行あり

不動の目黒不動より日本武尊の説を交へハ此社を誤りて云ふんを

附北条家の所領從帳小太田源七郎島津孫四郎等此地を領し永祿二年小田東鑑は建久元年正月七日の条下目黒弥五郎と云ふ名を載し此地より此

金毘羅大権現社 同所二町を隔つ西の方通を隔てあり祭る

所讃州象頭山金毘羅神と同一當社を以御城南鎮護神と

稱しなると九条家深筆の額を蔵を別當ハ禪宗より高

幢寺といふ境内は難波の梅又曾根の松と稱する樹あり

千代崎 渋谷宮益町より目黒長泉律院へ引道の傍芝生の

岡といふ佳景の地中永峯に属せり絶景觀とあり松平

主殿侯の別荘の号より閑寂無為自然其地は應を

高峰山長泉律院 同所六町より西の方あり浄土宗より縁

山に属せり則縁山前大僧正成誓大玄和尚と開創の主なり

不能律師弟二世より弟三世を徳門和尚とす

惠嚴彫造

本堂 山の鞍腰よりあり文室と云ふ十間の回廊と本尊ハ上品上生に

阿弥陀如来なり

経蔵 門より左あり安永七年戊戌落成を在律鐘樓 安永元年徳門律師建立

當寺ハ宝暦十一年辛巳縁山前大僧正成誓上人創始より久く律院と

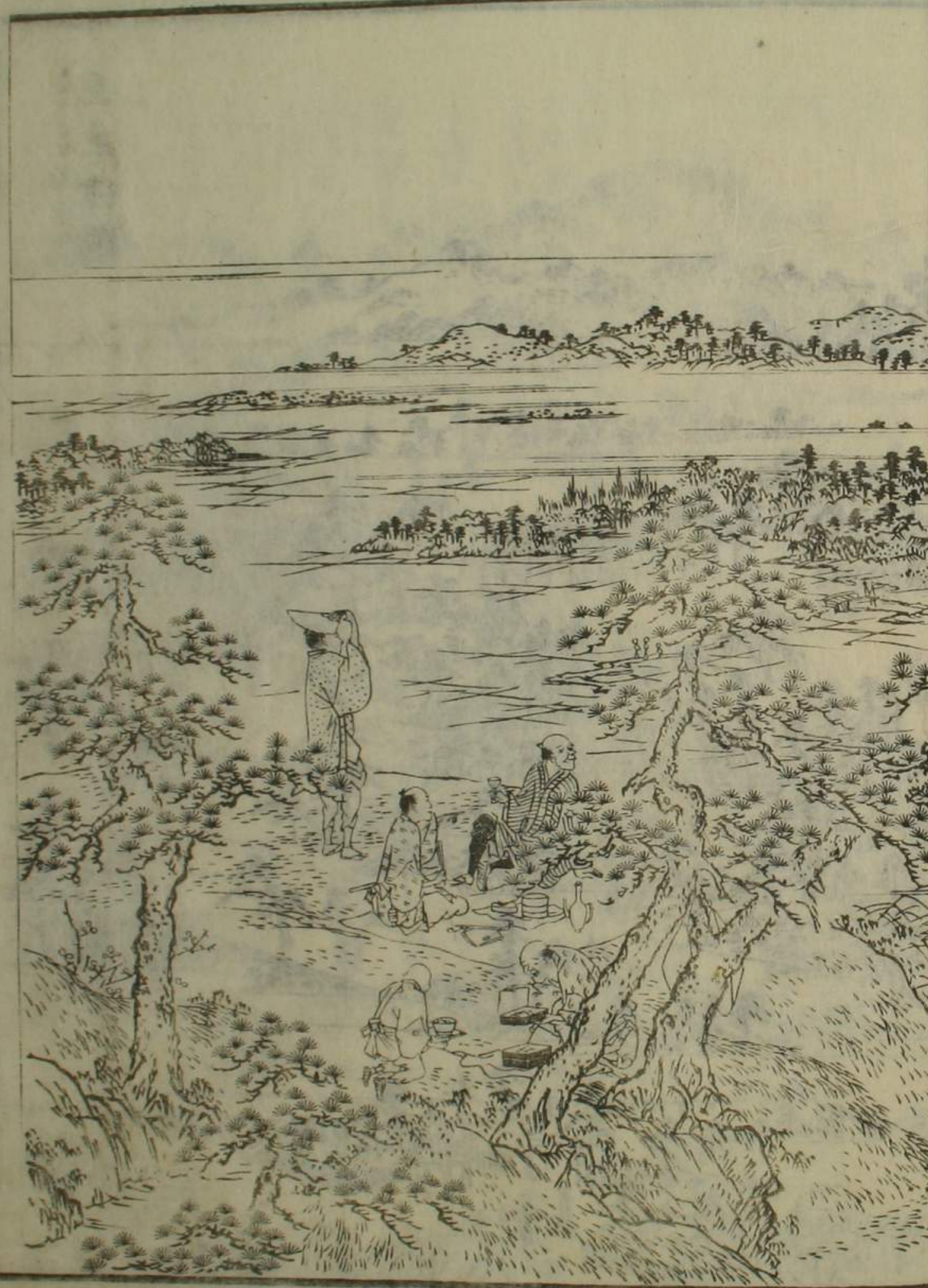
創起するの志ありと云ふ新小寺と開創するよりハ官より禁

大鳥明神社



金毘羅社





子代々
 行人の北永松
 主殿作別荘の後中
 目録の方へ下る所
 なり初鑑り傍とのひ
 しを後より子代々
 改めしとのふま後作
 梅の旧跡より此の
 傍に永掛松といふ
 所は新田義興の室
 主殿夫人の居りし
 所なりとのふま
 松といふを
 授けたりと云ふ
 親といふも
 此の所の
 ありと云ふ

長泉律院
ちゆうせんりつゐん



とを故のつり事なりす 不能律師に至り營建既なるも 大玄大僧
正尔寂あを依師の遺志を奉一法弟子如等百計千慮一と
それを金つ川越蓮馨寺主教意上人力を裁せ扶成を再ひ官に
告て所請中準をもとを得く創建落成を号けく長泉院と云
山間より清泉涌出て境内を扶費の施主北川氏某之あに於く
宝曆十三年の夏千如等徳門師を請て當寺に住持とす
徳門律師行狀記云く師諱普寂字徳門自ら道光と号け興州
衆名縣増田邑は誕を父ハ向流源寺主秀寛母ハ中村氏あり師襁褓を
もれてより好く禮佛誦經の態を常に見異中と名繼の相あり三歳字と識り
六歳書と讀ん授ふの経書一受轉記を年とてとく師の字徳既み世わのあれと
三衣一鉢をうけ唯身を操ふの錢一糸を蓄ふをあはれ竟ハ天明元年
辛丑十月十四日化寂を圓世七十五臘夏三十六其徳化ハあまひく世ハあまひく
略す又師生平撰述の書甚多くす刊せざるものありと刊せざるものありと總計
四十部百四十有三卷あり云く
當寺ハ常行念佛の道場ありと浙々々々松風をととく梵唄の
声を助け去此不遠の秋の月ハ長泉の流ふやと実ハ清淨無塵の
淨刹なりと常ニ寥寂とす

